

Bastiens' INVITATION TO MUSIC Series

ピアノパーティー B ガイドブック

ジェーン・S・バスティン リサ・バスティン ローリー・バスティン



Neil A. Kjos Music Co., Publisher

株式会社 東音企画

教師の方々へ

私達は4才くらいで音楽に興味を持ち始めている幼い子どもたちの為にこのメソッドをもっとより詳しく知って頂きたいと願っています。早期からピアノレッスンを始める極めて有利な点は、練習をするという習慣や集中力を高めるなどの能力を学齢期に達する頃にあらゆる局面で活かされることです。＜ピアノパーティーシリーズ＞で育った生徒達は聴く耳を持った聴衆にも、また演奏家にもなることができます。

この＜パーティーシリーズ＞は進度に応じてA～Dの4つのレベルに分かれ、それぞれのレベルはピアノパーティー、聴音&楽典パーティーそしてパフォーマンスパーティーの3種類のテキストから構成されています。

私達3人は世界中の子どもたちがバスティン・メソッドによって一生を通じて音楽を楽しみ、友とすることを心から望んでやみません。

Jane Smisor Bastien, Lisa Bastien, Lori Bastien

翻訳：池田由美子


目次

☆ ピアノ・パーティーBに入る為の予備知識の確認	ii
☆ パーティーシリーズについて	ii
☆ パーティーシリーズの重要なポイント	iii
たいこのこうしん	2
ひだりてでひこう	4
リズムをたたこう	5
Cポジションのうた（ハちょうちょう）	6
やまのぼり	8
おとなり「すてっぷ」どんどんすすめ	9
さかなつり	10
とばして「すきっぷ」どんどんすすめ	11
けんけんぱっ	12
ねるしたくできたかな？	13
こうすれば幼い子どもにも和音（Iのわおん）が弾ける*	13A
わおんをひこう	14
C（どみぞ）のわおん	15
Gポジションのうた（トちょうちょう）	16
ひこうき	17
うきうきするね！	18
G（そしれ）のわおん	19
リズムをたたこう	20
あたらしいリズムをひこう	21
パイの おみやげ！	22
とばして「すきっぷ」とんでみよう！	23
じてんしゃ きょうそう	24
とばして「すきっぷ」なんのおと？	25
Fポジションのうた（ヘちょうちょう）	26
クリスマス	27
Fのわおんでジャンプ！	28
おとなり「すてっぷ」あがるさがる	29
まちがえないで！なんのおと？「すてっぷ」と「すきっぷ」	30
ぴっかぴかのカレンダー	31
グループIのちよう	32
まほうのハーブ	33
だいふひょう	34
せんとかんのおと	35
ぞくしち（V7）っていいおとね	36
ぼくのあたらしいペンだよ	37
とばして「すきっぷ」	38
「すきっぷ」のおんぷかこう！	39
せいじゃがまちにやってくる	40
ポジションのふくしゅう	42
修了証書	43

* 印のページは、ピアノパーティーBのテキストには載っていませんが、大切なテクニックなのでこのガイドブックでは取り上げて説明しています。

☆ピアノ・パーティーBに入る為の予備知識の確認☆

ピアノパーティーBに入る為にはピアノパーティーAで勉強をした以下のことを生徒がしっかりと身につけている必要があります。

- ・ 右手と左手がはっきりとわかる
- ・ ゆびばんごうを覚えている
- ・ 音の高さの違い（音域）を理解している（ひくい たかい まんなか）
- ・ 黒鍵を使ったプレリーディングの曲を弾くことができる
- ・ 音名をおぼえている
- ・ 白鍵の名前が判別できる
- ・ リズムと音符を理解している（四分音符 2つの八分音符 二分音符 付点二分音符 全音符） 
- ・ プレリーディングでミドルCポジションの曲が演奏できる

☆パーティーシリーズについて☆

パーティーシリーズは生徒それぞれのあらゆる個性に対応できる豊かな内容を持っています。ピアノパーティー、聴音&楽典パーティーそしてパフォーマンスパーティーの計3冊をセットで使えば、生徒の技術にますます磨きがかかり、基礎能力をしっかりと身につけさせることができるのです。

そしてこの3冊の教材を同時に使えばレッスンの間に子どもをただピアノの前に座ったままでじっとさせている必要がなくなります。つまり歌ったり、書いたり、手をたたいたりなど色々他のことをすることで、子どもたちに集中してレッスンを受けさせることができます。そしてより長い時間、集中力を持たせることができるようになるのです。

3冊それぞれのテキストはユニットに区分けされています。でもこのユニットは教師のレッスン計画のためではなく、本の章と同じく内容によって整理されています。そこで毎週の宿題の量は教師自身の判断で決めて下さい。このテキストは生徒一人一人の能力と進み具合にうまくあわせていけるようになっています。

特にこうしたピアノのレッスンを始めたばかりの生徒には、毎回のレッスンの後に、必ず少し時間を取って両親にいま何をレッスンで行ない、どうしてそれをさせるのかを明確に説明をして、次のレッスンまでにどのようなことを練習させて来て欲しいかを伝えるようにして下さい。こうして繰り返し、繰り返し子どもと親の両方に誠意をもって話し続ければ、やがてはきちんと練習をするという素晴らしい習慣を身につけさせることができるようになるのです。

◎ピアノパーティー

ピアノパーティー<パーティーシリーズ>の主教材となる本で聴音&楽典パーティーとパフォーマンスパーティーの計3冊をセットでお使い下さい。なお補助教材（副教材）を使うメリットは生徒に同じ程度の様々な曲を学習させ、一步一步着実に実力をつけさせることです。

◎聴音&楽典パーティー

聴音&楽典パーティーはピアノパーティーで紹介されたものを書いたり聞いたりしながら、より確かに身につけさせます。聴音&楽典パーティーは想像力を働かせて楽しみながら「聞く」能力を育てます。その結果として生徒は音楽に対する理解度を深め、次の段階へスムーズに進めるのです。

◎パフォーマンスパーティー

パフォーマンスパーティーは補助教材の曲集で、パフォーマンスパーティーBの始めの方ではピアノパーティーと同程度のテクニックの練習曲が盛り込まれています。これらの補助教材はピアノパーティーで次々と紹介される新しい内容を確実に把握させる大きな助けとなるものです。そしてこれらの曲は生徒が喜んで弾きたがる人気のあるもので、新しい学習内容を色々な曲のスタイルから学び取らせることができます。そして生徒は学んだことをしっかりと消化して身につけるのです。

◎テキストの後ろに設けられている「教師の手引き」

それぞれの本の最後に設けられている「教師の手引き」は簡単な教師へのアドバイスと生徒が弾くプレリーディングの譜面を五線紙に書き換えたものや聴音課題の例が載っています。

◎このガイドブックについて

このガイドブックはまずピアノパーティーBのページ全体が上半分にそのまま転載され、下半分にはそれを教える際に役立つアドバイスが丁寧に書かれています。また補助教材として併用する聴音&楽典パーティーBとパフォーマンスパーティーBの参考ページも明記されています。

◎個人レッスン、グループレッスンまたは個人とグループレッスンの組み合わせ

パーティーシリーズは色々な指導スタイルに柔軟に対応することができます。個人レッスンはもとよりグループレッスンまたは個人とグループレッスン等に使えます。

☆ パーティーシリーズの重要なポイント☆

この項目は10の具体的なポイントに分けられています。これらはピアノ演奏に必要不可欠なものであり、最終的には幅広く豊かな音楽性を若い生徒にもたらしめます。

1. 確実なテクニックと音楽性の下地作り

テクニックは非常に早い段階から取り組ませます。プレリーディングの重要な点は以下の事柄に焦点を絞って幼い子ども達に学ばせることです。

- ・腕や手、指先の筋肉を上手に使えるようになること
- ・良い手の形を作ること
- ・良い音で弾く無駄のない動きを、自分の弾いた音を聞きながら学ばせること

簡単なテクニックの練習曲はパフォーマンスパーティーBから紹介されます。またパフォーマンスパーティーC、Dにもテクニックの練習曲が入っています。こうしたことから、テクニックは練習に絶対不可欠なものとなり、生徒は確実なテクニックの基礎を継続的に習得できるのです。

2. 鍵盤の完全な理解

鍵盤の位置関係をきちんと覚えさせれば、幼い子どもといえどもウロウロせずに鍵盤の端から端までを使ってさっと演奏できるようになるのです。そしてピアノパーティーDを終わる頃には5指のポジションで12の全長調と幾つかの短調をひけるようになっています。

3. しっかりとしたリズムの基礎能力作り

リズムはピアノパーティーAの始めの頃から重要視して取り上げています。まず生徒に記号で音符ののばす長さを目から（視覚的に）理解させます。次に記号で示す長さは基本的にはリズムの記譜と関係しているので、視覚的にこの両者を関連づけて理解させます。こうして学んだリズムを、手をたたいたりひざをたたいたり、リズムを歌わせたりして目から学んだことを耳からも習得させます。ピアノパーティーCで五線譜表が登場し、そのすぐ後に拍子が紹介されます。

そしてピアノパーティーDを終わる頃には $\frac{2}{4}$, $\frac{3}{4}$, $\frac{4}{4}$, $\frac{3}{8}$, $\frac{5}{8}$ として $\frac{6}{8}$ の曲を、拍子をかぞえながら弾けるようになっています。

4. ずば抜けた初見の能力

生徒はまずプレリーディングの読譜から始めます。プレリーディングは五線譜表を読む準備段階のもので、3つの重要な目的を持っています。

- ・楽譜の音符の上がり下がりしている方向を見せながら、指をそれぞれに関連させて動かすことができるようにする。
- ・それぞれの音符を判別できるようにさせ、音符の名前をはっきりいながらリズムをかぞえさせてリズム感を養う。
- ・はっきりとリズムをかぞえながら（楽譜から目をはなせずに）ピアノを弾けるようにする。

ピアノパーティーはプレリーディングの大きく書かれた音符と指番号から始まります。ピアノパーティーBではその音符の中に音名が書かれてきます。そしてピアノパーティーBの中ほどになると、指番号の表示がなくなります。ただし弾き始める最初の音符だけは指番号が書かれています。ここまで来たら生徒に音名をはっきりと歌わせ、同時にステップ（2度）とスキップ（3度）を考えながら弾かせ、音名を前からでも後ろからでも理解して完全に把握させるようにします。ピアノパーティーCになって五線譜表が出てきた時、生徒はすでにプレリーディングで記号を読む作業に慣れているので、問題なく五線譜表を読むことができます。そして音名を読む作業に関連付けて楽譜を読むようになるのです。ピアノパーティー、聴音&楽典パーティーを一緒に使えば、同程度の教材が充分に与えられ、優れた初見能力を身につけさせることができます。

5. 移調

移調はピアノパーティーBから紹介されています。移調は生徒に音程関係を学ばせます。しっかりと身についた音程感覚は音程を使って読譜する際の大きな助けとなります。

6. メロディーと和音伴奏

主和音（I）と2つの音で構成されている属7（V7）の和音はピアノパーティーBから出てきます。そしてメロディーに対してこの2種類の和音が和声付けされています。こうして和声付けされた曲をこの<パーティーシリーズ>で弾き続けていくうちに、最終的には生徒自身で和声付けができるようになるのです。

7. 聴音と即興の能力

聴音&楽典パーティーは生徒が喜んで取り組めるように聴音や即興の大切な色々の課題が盛り込まれています。早期における聴覚の発達には若い生徒達の成長過程にとって必要不可欠のものです。

8. 楽典の基礎知識

聴音&楽典パーティーで書いたり聞いたりする課題はピアノパーティーとパフォーマンスパーティーの大切な要点である調性、音程、和音そして和声構成などを理解させるものです。そして、こうした楽典の知識こそがなくてはならないものなのです。

9. 様々なレパートリーと音楽のスタイル

<パーティーシリーズ>では、簡単なワルツからブギまでのあらゆるスタイルの曲に触れることができます。そしてそれらの曲はまず子どもが弾きたくなるようにということが目的に作曲されています。

10. アンサンブルの重要性

ピアノパーティーAとパフォーマンスパーティーAの中ほどから連弾の伴奏が付け加えられています。連弾（アンサンブル）は確実な初見と一定のリズムを保持しながら弾く能力を付ける重要なものです。連弾（アンサンブル）は生徒に他の人と一緒に音楽を創る喜びを教えてくれる素晴らしいものです。

2

2 ユニット1
教師の手引き 44ページ

まいにち
つぎの4とおりにひきましょう。
1. ゆびばんごうをいいながら。
2. こえをだして、かぞえながら。
3. おとのなまえをいいながら。
4. かしをうたいながら。
いつもちゅういしましょう。
1. ただしいのがちうでむく。
2. びくふからめをはなさないでむく。

伴奏：生徒は1オクターブ高くひきます。

はいろいろのけんばんーまんなかのC
まんなかCポジション

ち い さ な た い こ お お き な た い こ

1 2 3 4 5

ひきだす

WP271J

教師の手引き 44ページ

ねらい

- ・ ひき続き、ミドルC（まんなかのド）の勉強とこれまでの復習をします。
- ・ 両手を使う演奏がここから登場します。
- ・ 元気よく声をだしてかぞえながら演奏しましょう。
- ・ オクターブ（8va）の記号を教えましょう。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

記号の復習

- ・ **緑の矢印**：それぞれのページの弾き始める場所を示しています。
- ・ **青色の左手**：左手を使うことを示しています。
- ・ **赤色の右手**：右手を使うことを示しています。

新しい記号

- ・ **灰色の鍵盤**：鍵盤図にある灰色の鍵盤（2ページ）はミドルC（まんなかのド）を示しています。
- ・ **{(かっこ)**：{(かっこ)の印（3ページ）は両手で弾くことを示しています。
これはあとの大譜表のところにもできます。
- ・ **8va**：8va（オクターブ）を示しています。この印のところでは両手をオクターブ低い場所で演奏させます。

先生方へのアドバイス

- ・ 生徒と親の両方に、記号を全部説明して下さい。
- ・ 生徒に鍵盤上で、まずミドルC（まんなかのド）のポジションを見つけさせましょう。その時もし生徒が少しとまどっているようであれば、必要に応じて手伝ってあげて下さい。
- ・ 曲の最後にでてくる両手を一緒に弾くところは、はじめに片手ずつの練習をしてから、両手一緒に弾かせて下さい。またオクターブ下がって弾くところではリズムが崩れることなく、確実にスムーズに移動が出来るようにさせましょう。そのためにはまず次に弾く鍵盤に手を移して、かるく触れて（決して押さない）準備をするように指導して下さい。
- ・ **【まいにち】**にかかれていた4つの練習方法で弾かせます。
 1. ゆびばんごうをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. おとのなまえ（音名）をいいながら
 4. リズムにあわせ、かしをうたいながら
- ・ 親に自宅での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそしてレガートで弾くことをしっかりとチェックして守るように協力をお願いして下さい。
- ・ 生徒がこの曲を弾けるようになったら、次回のレッスンで2ページの上にかかれていた伴奏のパートと一緒に弾いてあげて下さい。生徒にとって先生と一緒に連弾ができることは大きなごほうびになるでしょう。

ユニット1³

Hand diagrams showing finger positions for notes: C (thumb), D (index), E (middle), F (ring), G (pinky), A (thumb), B (index), C (middle), D (ring), E (pinky).

Lyrics: リ ス ム ニ あ わ せ げ ん き に た た け
 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1
 C B A G F E D C B A G F E D C B A G F E D C

Notes: *Bva* -----
 リょうてとも1オクターブひくくひきます。

WP271J

ここが指導のコツ

- ここでおとのなまえ(音名)が初めて音符の中に書かれています。生徒と親の両方にこの曲を弾く時に音名を元気よく言いながら又は歌いながら弾くことがとても大切であるとしっかり説明して下さい。そして、楽譜から目をはなさないでプレリーディングの譜面に書かれている音名(但しオクターブなどの場所の移動は別)を言いながら演奏することで、後で学習する五線譜を読むための準備に役立つことを説明して下さい。
- またABC (ドレミでもよい)の音名を学習させることは生徒にとって将来的にも必要不可欠なことです。この能力は結果としてプレリーディングから五線譜にスムーズに移行するためにプラスになるのです。これを習得させるためにAからGまでのフラッシュカードを作って<ステップゲーム>をさせましょう。

ステップゲーム: まず用意したフラッシュカードをよく混ぜて1枚適当に選んでその選んだカードの音から始めます。

必ず生徒にはステップの順で前からでも後ろからでも並べられるようにさせましょう。

DEFGABC そして DCBAGFE というふうに
 レミファソラシド レドシラソファミ

- このゲームはフラッシュカードだけでなく鍵盤を使ってすることもできます。そして最終的に生徒がフラッシュカードを頼らなくても、また鍵盤を見なくてもスムーズにこの音名が言えるよう根気よく教えて下さい。
- このゲームはピアノパーティーBを学習しているあいだは、自宅で親子一緒に楽しめる課題として与えましょう。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- 聴音&楽典パーティーB
 - p.2 “はっけんのふくしゅう”
 - p.3 “ぬけているおと なあに?”
- パフォーマンスパーティーB
 - p.2 “おんぶのマーチ”

4

4 ユニット1

ひだりてで ひこう

ゆびとおとにきをつけて、かぞえながら ひきましょう。

伴奏：教師は生徒のうしろに立って弾くとよいでしょう。

WP271J

先生へ：ミドルCポジションとCポジションとの違いを教えてください。

ねらい

- ・左手でCポジションを弾く練習です。
- ・リズムに焦点を置くために1つの音（例えばCを5の指で）でリズム譜のリズムを弾かせます。
- ・きちんと一定の拍をキープして演奏させます。
- ・弾いている時は必ず楽譜から目ははなさないで、元気よくリズムをかぞえさせます。
- ・2つの八分音符の準備をここからします。
- ・連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・楽譜にかかっている鍵盤図を使って生徒に手のポジションを見つけられるようにしましょう。
- ・楽譜の一番下に書かれている緑の矢印の段から弾き始めます。生徒と一緒に1つ1つのリズムのパターンを手をたたきながら元気よく数えましょう。そして、1つの段が終わったら、次の上の段へと進みましょう。
- ・絵に描かれている音を右どなりに示されているゆびばんごうの指を使ってそれぞれのリズムを元気よく数えながら弾かせましょう。

例：バケツ（C（と）） シャベル（5の指）

- ・レッスンの時まず課題のリズム全部を生徒と一緒に弾いてから、必ずこのページを家での宿題にして下さい。

ここが指導のコツ

- ・生徒が4ページのリズムを弾く時に、1つ1つの音を先生が指で示すと生徒がリズムを追いかけながら弾く手助けになることでしょう。
- ・このページの課題をリズム楽器を使うとより楽しく学習することができるでしょう。

補助教材を併用する際の参考ページ（テキストと同時進行または数週間後）

- ・聴音&楽典パーティーB p.5 “チャイムのおと”

リズムを たたこう

ユニット1 5
教師の手引き 44ページ

つぎのしるしをよくみて たたきましょう。

＝ ー ピアノの上蓋をたたく。
(りょうてでたたいてもよい)

X 手拍子でたたく。

1.

たたく: ＝ ＝ X X X ＝ ＝ X

こえをだして: 4た 4た 8 が 4が 4が 4が 2が おんぶ
 たん たん た た たん たん たん たー あん

2.

3.

4.



WP271J

ねらい

- ・手・ひざ・ピアノの上蓋をたたいたりして、リズムを身体で感じさせましょう。
- ・きちんと一定の拍をキープして演奏します。
- ・2つの八分音符の準備をここからします。
- ・手・ひざ・ピアノの上蓋をたたいたりしながら、リズムを楽しみましょう。

新しい記号

- ・X: 緑色Xの記号は手拍子でリズムをたたきます。
- ・ー: 緑色ーはピアノの上蓋を両手でたたきます。

先生方へのアドバイス

- ・生徒と親の両方に新しい記号の説明をして下さい。
- ・まずピアノの上蓋を閉めて1.のリズムを生徒と一緒にゆっくりと、そしてはっきりとリズムを数えながら手をたたいたり、ひざをたたいたりしましょう。一つのリズム課題ができたなら、次に書かれたリズム課題を学習させましょう。
- ・そして全部のリズムがレッスンで一通り終わったら、このページを必ず宿題として与えて下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・聴音&楽典パーティB p.7 “きつつきのうた”

6

6
ユニット1
教師の手引き 44ページ
まいにち

つぎの4とおりでひきましょう。
1. ゆびばんごうをいいながら。
2. こえをだして、かぞえながら。
3. おとのなまえをいいながら。
4. かしをうたいながら。
いつもちゅういしましょう。
1. ただしいてのめをひく。
2. がくふからめをはなさないでひく。

Cポジション のうた(ハちょうちよう)

♩	♩	♩	♩	♩	♩	♩	♩	♩	♩
C	D	E	F	G	C	ポ	ジ	シ	ョ
(ハ)	ち	ょう	ち	よう	(ハ)	ち	ょう	ち	よう
1	2	3	2	1	1	2	3	4	5
と	れ	み	あ	ぞ	と	あ	み	れ	と

つぎのゆび・つぎのおとに
すすむときは「すてつぷ」です。
おとあり「すてつぷ」=2ど です。

先生へ：本書では、ステップ(2ど)をmcaの「ステップ」としています。

ひだりて
Cポジション

WP271J

教師の手引き 44ページ

ねらい

- ・ はじめてCポジションを使って弾く曲です。
- ・ 2つの八分音符もここで曲の中に登場します。
- ・ この曲はステップ(2度)の音程ではっきりとわかるように作られています。

先生方へのアドバイス

- ・ まずステップ(2度)の音程をわかりやすく説明して下さい。「ステップというのは1つの指からとなりの指に行くことで、音もとなりの音に行くことです」と話して下さい。そして、先生がステップの音程を上がったり下がったりして、お手本を弾いて生徒に聞かせて下さい。こうして準備をしてから楽譜を読ませればスムーズに学習していけるでしょう。
- ・ 6~7ページに示されている手の中に書かれている鍵盤図で生徒がCポジションを見つけられるようにしましょう。
- ・ 【まいにち】に書かれている4つの練習方法で弾かせます。
 1. ゆびばんごうをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. おとのなまえ(音名)をいいながら
 4. リズムにあわせ、かしをうたいながら
- ・ 親に自宅での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそしてレガートで弾くことをしっかりとチェックして守るよう
に協力をお願いして下さい。

ユニット1 ⁷

The illustration shows a piano keyboard with a character wearing a top hat and holding a cane, appearing to be climbing or interacting with the keys. Below the keyboard, a hand diagram shows the C major scale (C D E F G) with fingerings 1 2 3 4 5. The text 'みぎて' (right hand) and 'Cポジション' (C position) is written below the hand diagram.

と れ み ゑ ぞ

1 2 3 4 5

お と な り は ス テ ッ プ よ

WP271J

音楽的な技術上のヒント

- もしも生徒が良い手の形で演奏ができ、レガートで弾くこともできるようになっている場合は音楽的な要素もメロディーの流れと共に教えてもよいでしょう。まず、簡単な強弱を決めて生徒が演奏している時に、一緒に言葉で指示をしていきます。

例：子どもが5つの上行形の音をクレッシェンドで弾く時、子どもがそのパッセージを弾き始めたらそれと同時に「だん だん おお きく なーれ！」といます。

子どもが5つの下行形の音をディミニユエンドで弾く時、子どもがそのパッセージを弾き始めたらそれと同時に「だん だん ちい さく なーれ！」といます。

- 上の例で使った歌詞（言葉かけ）はあくまでも参考例なので、先生が生徒に応じて一番効果の上がる歌詞（言葉かけ）を選んでみましょう。先生の歌う時の声は生徒の演奏とマッチするように心がけて下さい。
- こうして歌詞を付けて強弱の練習をした後で、強弱の違いやレガートなどの音の違いも生徒に聞き比べさせて下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・聴音&楽典パーティーB p.4 “わかるかな? 2つの Cポジション”
p.6 “あめふりの くまさん”
- ・パフォーマンスパーティーB p.3 “メリーさんのひつじ”
p.4 “シーソー”

8 ユニット2

教師の手引き 44ページ

まいにち

つぎの4とおりでひきましょう。

1. ゆびばんごうをいいながら。
2. こえをだして、かぞえながら。
3. おとのなまえをいいながら。
4. かしをうたいながら。

いつもゆういしましょう。

1. ただしいのかたちでひく。
2. びくみからめをはなさないでひく。

伴奏：教師は生徒のうしろに立って弾くとよいでしょう。



やまのぼり

Cポジション





WP271J

教師の手引き 44ページ

ねらい

- ・ ひき続きCポジションを使ってしっかりとポジションを教えます。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ ステップ（2度）の音程の復習をさせましょう。
- ・ さし絵（CDEFGの雲の形）を使ってCポジションのおんめい（音名）を見つけさせて下さい。次に鍵盤でCポジションを見つけさせましょう。
- ・ 【まいにち】に書かれている4つの練習方法で弾きます。
 1. ゆびばんごうをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. おとのなまえ（音名）をいいながら
 4. リズムにあわせ、歌詞をうたいながら
- ・ 親に自宅での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそしてレガートで弾くことをしっかりとチェックして守るよう協力をお願いして下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ（テキストと同時進行または数週間後）

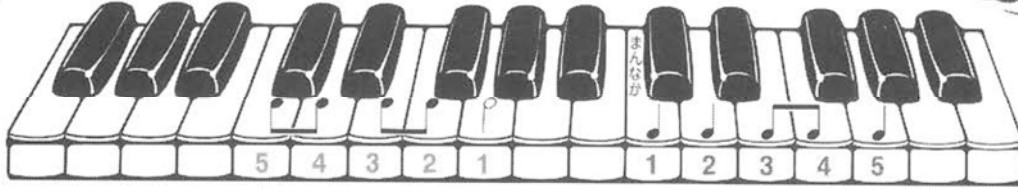
- ・ 聴音&楽典パーティーB
 - p.8 “かけるかな？2つの Cポジション”
 - p.10 “Cポジションのおとさがし”
- ・ パフォーマンスパーティーB
 - p.6 “ニューイヤー パレード”
 - p.7 “へびのおどり”

おとない「すてっぷ」 どんどん すすめ

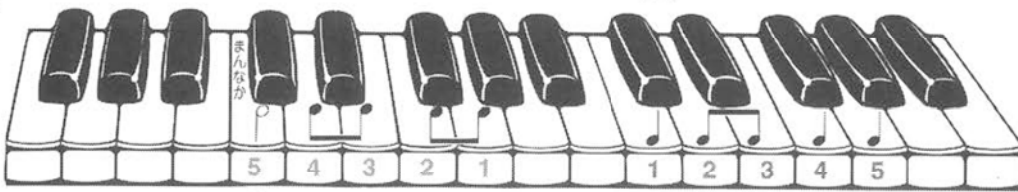


リズムに きをつけて、こえをだして かぞえながら ひきましょう。

1.



2.



WP271J

ねらい

- ・まずテキストの鍵盤図を使ってステップの理解をさせてから、ピアノの鍵盤で弾かせます。
- ・鍵盤図にかかっているリズムを読みます。

先生方へのアドバイス

- ・ステップの復習をします。
- ・まず鍵盤図でCポジションをしっかり理解させて実際の鍵盤でもCポジションを見つけさせましょう。
- ・上の方に書かれている1番の鍵盤図を使って3つの練習方法で弾かせて下さい。
 1. ゆびのばんごうをいいながら
 2. おんめい（音名）をいいながら
 3. こえをだしてかぞえながら
- ・そしてそれができたら下の2番の鍵盤図でも同じように練習をさせて下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ （テキストと同時進行または数週間後）



- ・聴音&楽典パーティーB p.9 “ぬけているおとなあに”

10


10
ユニット2
教師の手引き 44ページ
まいにち

つぎの4とおりでひきましょう。
1. ゆびばんごうをいいながら。
2. こえをだして、かぞえながら。
3. おとのなまえをいいながら。
4. かしをうたいながら。
いつもちゅういしましょう。
1. ただしいのがちでひく。
2. がくぶからめをはささないでひく。

伴奏：生徒は1オクターブ高くひきます。


さかなつり
Cポジション



みぎて

ぞ 5 4 3 2
ふあ F E D
れ

おいしい



ひだりて

み 3 4 5
ふあ F G
ぞ

えさで

お 1 2 2 3 4 5
さ ぞ 2 3 4 5
か 3 2 3 4 5
な 3 4 5
つ 3 4 5
れ 3 4 5
た 3 4 5

WP271J

教師の手引き 44ページ

ねらい

- ・ ひき続きCポジションの練習をさせます。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

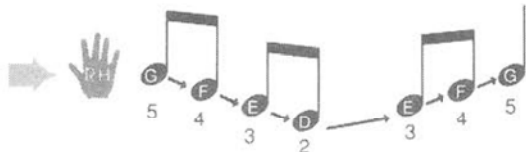
先生方へのアドバイス

- ・ Cポジションを見つけさせましょう。
- ・ 【まいにち】に書かれている4つの練習方法で弾かせて下さい。
 1. ゆびばんごうをいいながら
 2. こえをだして、かぞえながら
 3. おとのなまえ(音名)をいいながら
 4. リズムにあわせ、かしをうたいながら
- ・ 親に自宅での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそしてレガートで弾くことをしっかりとチェックして守るよう
に協力をお願いして下さい。
- ・ 10ページのかめやさかなの挿し絵の中に書かれている音名(A B C)を見つけさせて、楽しみながらCポジションの音
探しをさせて下さい。

ここが指導のコツ

- ・ ここで始めてCポジションの中でステップの進行をしながら上がったったり下がったりということを学びます。
- ・ その学習の手助けとしておんめい(音名)をいわせると同時に指がどうしているかということを生徒自身で声
に出していわせます。
例：「G(ソ)から下ってF(ファ) F(ファ)から下ってE(ミ) E(ミ)から下ってD(レ) D(レ)から上ってE
(ミ)」というふうにします。 注：「～からステップで下って～」という教え方もあります。
- ・ 矢印で進行方向を書かせていくのも役に立ちます。下の例を参考にして必要と思われるところに書いて下さい。

例：

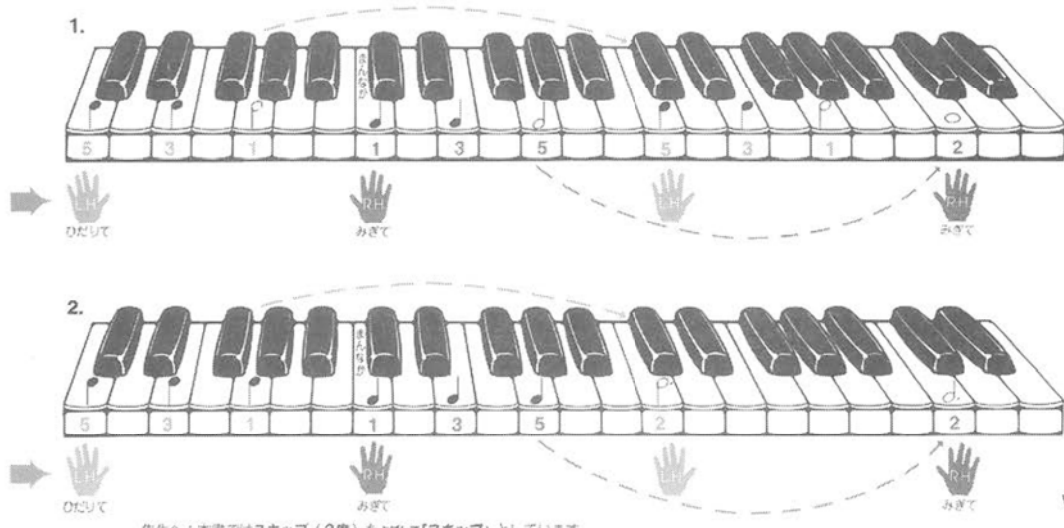


補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.11 “ぬけているリズム なあに?”
- ・ パフォーマンスパーティーB p.8 “ヨーヨーあそび”

とばして「すきつぶ」ぴよん ぴよん すすめ

ゆびも おとも ひとつ とばすと「すきつぶ」です。
とばして「すきつぶ」=3ど です。
リズムに きをつけて、こえをだして かぞえながら ひきましょう。

先生へ：本書ではスキップ（3度）をとばして「スキップ」としています。

WP271J

教師の手引き 45ページ

ねらい

- ・ここでスキップ(3度)の音程をしっかりと説明します。
- ・まずテキストの鍵盤図に書かれているスキップとリズムを見せて理解させてから、ピアノで弾きましょう。
- ・ここで初めて手を交差して弾きます。

記号の復習

- ・青色の点線：左手の動きを示します。ただし、ここでは右手の上で交差させて弾きます。
- ・赤色の点線：右手の動きを示します。ただし、ここでは左手の下で交差させて弾きます。

先生方へのアドバイス

- ・スキップの音程を弾いたり鍵盤図を使ったりして説明をします。スキップの上がったり下がったりの音程を生徒に聞かせます。生徒にスキップの音程というのはおんめい(音名)を1つ飛ばして読んでいくことであると説明します。
- ・“記号の復習”で取り上げた青色と赤色の点線を親と子どもにも復習させて下さい。
- ・まず鍵盤図でCポジションの位置を生徒に見つけさせます。
- ・1番の鍵盤図を次の3つの方法で弾かせて下さい。
 - 1.ゆびのばんごうをいいながら
 - 2.おんめい(音名)をいいながら
 - 3.こえをだしながら
- ・2番の鍵盤図も1番と同じように弾きます。

ここが指導のコツ

- ・手を交差させる時にリズムがつかかたり、止まったりしないで自信をもってスムーズに移動できるようにさせるためには、生徒が弾こうとする鍵盤の位置にあらかじめ手を置いて準備しておくことを教えます。
- ・おんめい(音名)ABCをしっかりと覚えるために音名のフラッシュカードを使いましょう。

スキップゲーム：まずフラッシュカードを音の上行形で順番にならべて、スキップの質問をします。


教師：D(レ)からスキップで上がった音はなに？
生徒：F(ファ)
教師：じゃD(レ)F(ファ)の間にあるどの音をスキップしたのかな？
生徒：E(ミ)
- ・上行形のスキップを生徒が理解したら同じように下行形も教えます。
- ・フラッシュカードでしたゲームをピアノでもさせます。決して焦らず時間をかけてピアノや並べたフラッシュカードを見ないでスキップのおんめい(音名)が言えるようにさせたいものです。このフラッシュカードやピアノを使ってのゲームは子どもと親とでできる楽しいゲームになります。

12

12 ユニット3
教師の手引き 45ページ

まいにち
つぎの3とおりでひきましょう。
1. おとのなまえをいいながら。
2. こえをだしてかぞえながら。
3. かしをうたいながら。
いつもちゅういしましょう。
1. ただしいてのからでひく。
2. がくふからめをはなさないでひく。

伴奏：生徒は「オクターブ高くひきます。」




けん けん ぼつ

Cポジション

と	み	ぞ	み	と	み	ぞ	み
1	3	5	3	1	3	5	3
1. と	ば	し	て	す	き	っ	ぶ
2. は	み	だ	さ	な	い	で	ね

け	ん	け	ん	ぼ	つ
け	ん	け	ん	ぼ	つ
		1			
		ぞ			
		3			
		み			
		5			
		と			



みぎて
ひだりて

はんぷくきごう
はじめから
くりかえして ひく

WP271J

教師の手引き 45ページ

ねらい

- ・はんぷくきごう(リピート)の復習をさせます。
- ・スキップの音程を使ってCポジションを弾かせましょう。
- ・連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・はんぷくきごう(リピート)の復習とスキップの音程を復習させて下さい。
- ・この曲で使う3つの音名(C E G)をさし絵の中から見つけさせて下さい。C(ド)とE(ミ)、そしてE(ミ)とG(ソ)のスキップの音程でどの音をスキップしたのかをたずねて下さい。
- ・【まいにち】に書かれている3つの練習方法で弾かせます。
 1. おとのなまえををいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしをうたいながら
- ・【まいにち】の練習の中でこれまであった「ゆびばんごうをいいながら」という項目が消えているのに気付かれたことでしょうか。これは16ページからゆびばんごうが消えて、おとのなまえ(音名)だけが残るのでその準備のためです。生徒と親にこのことをよく説明して、音名で歌うことがとても大切であるとしっかりと理解させて下さい。
- ・親に自宅での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそしてレガートで弾くことをしっかりとチェックして守るように協力をお願いして下さい。そしてスキップゲームを(11ページの「ここが指導のコツ」を参考に)子どもと親にひき続きさせるようにして下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・聴音&楽典パーティーB p.13 「「すてっぷ」と「すきっぷ」かこう
- ・パフォーマンスパーティーB p.9 「スキップしよう すなはまで」

伴奏：生徒は1オクターブ高くひきます。

ユニット3
教師の手引き 45ページ
まいにち

つきの3とおりでひきましょう。

1. おとのなまえをいいながら。
2. こえをだしてかぞえながら。
3. かしをうたいながら。

いつもちゅういしましょう。

1. ただしいてのがたちでひく。
2. かくらめをはなさないでひく。

ねるしたく できたかな？

Cポジション

みさで

5 3 1 2 3 4 5

は を み が い た ら や く そ く の

た の し い え ほ ん よ ん で も ら お う

1 3 5 4 3 2 1 2 3 4 3 5 5 5

ひだして

5 3 1 2 3 4 5 5 5 5

WP271J

教師の手引き 45ページ

ねらい

- ・ ここでもスキップとステップの組み合わせを使ってCポジションを弾かせます。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ 生徒と一緒にさし絵の中に書かれているC D E F Gを見つけましょう。すぐには見つけれられないように工夫（ひとひねり）してあるので夢中になって探すことでしょう！
- ・ Cポジションを見つけてさせて下さい。
- ・ 【まいにち】に書かれている3つの練習方法で弾きます。
 1. おとのなまえをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしをうたいながら
- ・ 親に自宅での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそしてレガートで弾くことをしっかりとチェックして守るように協力をお願いして下さい。ステップ・ゲーム(3ページの“指導のコツ”を参考に)とスキップ・ゲーム(11ページの“ここが指導のコツ”を参考に)を親と子どもにひき続きさせて下さい。

ここが指導のコツ

- ・ この曲のステップとスキップの音程を生徒と一緒にチェックしながら、おとのなまえ(音名)を言わせて、それから音の進む方向を声に出して弾きましょう。

例：「G(ソ)からスキップで下ってE(ミ)、E(ミ)からスキップで下ってC(ド)、C(ド)からステップで上ってD(レ)」等
- ・ 進行方向に矢印を書かせることも助けになります。(10ページの“ここが指導のコツ”を参考に。) 必要と思われるところに矢印を書かせてみましょう。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.14 “おとのなまえをかこう” p.16 “いぬさんは なんて ほえたかな？”
- ・ パフォーマンスパーティーB p.17 “あおいとりのうた”
- ・ パフォーマンスパーティーB p.11 “れんぞくちゅうがえり”

13A



1



2

こうすれば幼い子どもにも和音（Iのわおん）が弾ける

この解説は次の14ページで取り上げる Iのわおん を弾かせるための準備です。

ねらい

- ・ 3本それぞれの指のつけ根を高くして、ただししい手の形で同時に3つの音を弾かせます。
- ・ 音楽的な基礎訓練のために、早い時期からこうして和音の響きを聞かせましょう。
- ・ メロディーに対する和声感を育てます。

先生方へのアドバイス

- ・ まずあなた自身の手を使って生徒と親に和音の構え方とその力の抜き方を実際の動作で、生徒の目の前で十分に説明をして下さい。ちょうど運動選手に対してコーチが“ココ”という動きのポイントとなるところをアドバイスする要領です。
- ・ 生徒にどのようにして構えてそして力を抜いていくのかを順序よく説明をします。
 1. まず生徒の左手をただししい手の形で鍵盤の上に準備させます。
 2. そして生徒の指を持って5と1の指を同じ力でひろげさせ、5はC（ド）に1はG（ソ）へ置かせます。その後から3の指をE（ミ）の音に置かせます。
 3. この5，3，1の指の位置が決まったら今度は生徒の4と2の指をほんの少しだけ上に上げさせて和音を弾く手の形を教えます。そしてこの形でまず3つの音を弾かせたら、今度は手首を前に少し押し出すようにして、力を抜きながら手首から上の方へ軽く持ち上げるようにさせます。その時必ず手首から動かすということを忘れないようにして下さい。（2.のさし絵を見て下さい）手首を前に押し出ししながら徐々に上げていくという動作は余分な力を抜くのにとっても有効です。

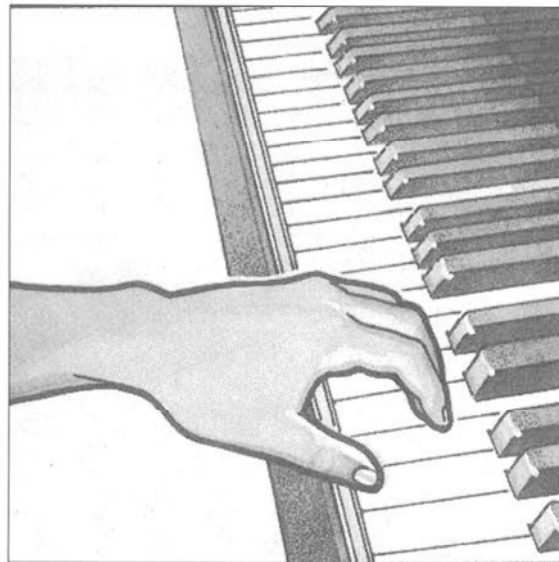
- ・ マーウィン・フリーは“レシテツキー・メソッドの基礎”という著書の中で和音を弾く時の余分な力を抜くことについて次のように述べています。

「すぐに疲れて和音が弾けなくなってしまうということにならないためには、無駄な力が入ってガチガチになった手首で叩きつけるように弾かないということが絶対条件です。まず和音を弾いたらすぐに余分な力を全部抜きましょう。そしてその後は鍵盤を押さえておくのに必要な力だけを指にかけておけばよいのです。そうすれば手は疲れずに余計な力を使わずに済むのです。」

- ・ 生徒がC（ドミソ）の和音を弾く時
 1. 腕の力を手に伝えてそれが指先にまで達して深く押し込むようにして構えていた手の形で弾かせます。
 2. 和音を弾いて、生徒が自分の弾いたその音をしっかりと聞いたのを確かめて、それからゆっくりと手首を前に押し出すようにしながら少しずつ上に上げさせていきます。
 3. 生徒自身に自分の弾いた和音の音をよく聞かせ、音が3つ同時に鳴っているかどうか判断させましょう。
 - 「3つの音が全部一緒に鳴っていたかな？」
 - 「いい音でひけたかな？」
 - 「音は全部ちゃんと聞こえていたかな？」というふうに生徒にたずねてみて下さい。
- ・ 右手でもこれと同じことをさせて下さい。
- ・ 和音の場合も他のピアノのテクニクと同じように、ただ口で説明するよりも生徒自身の身体で感じさせるほうがより効果的です。



3



4

魔法の鉛筆

・ 若い生徒の中にはこの時点ではまだどうしても先生や親の手助けがないとうまく和音が弾けないという場合があります。そこで古くから伝わっている「魔法の鉛筆」をご披露しましょう。

1. 生徒の手をまずピアノを弾く形にさせ、それから4と2の指の下に鉛筆を滑らせて入れます（さし絵のように）。その状態のまま、ピアノの上蓋を閉めてそして、5, 3, 1 それぞれの指の間隔が同じになるようにひろげさせて下さい。

2. そうして出来上がった手の形のまま、上蓋で和音を弾く準備運動をさせます。そしてピアノの鍵盤の上で（まだ鉛筆はつけたまま）同じ要領で和音を弾かせます。その時、特に3の指のつけ根を高くして、指もそらないようにということに注意して下さい。生徒によっては数週間（鉛筆がなくてもちゃんと手の形をキープして和音が弾けるようになるまで）かけて根気よく教えていかなければならない場合もありますから、生徒の進歩の具合をしっかりと把握しましょう。

3. 和音を弾く練習をさせる時、ただ弾かせるだけでなくその弾いた音の響きをしっかりと聞かせて下さい。

すばやくグンと押し込むように弾くと大きな音になりますよ。

さあ、よく聞いてね。

ゆっくりジワ〜っと押ししていくと小さな音になりますよ。

さあ、よく聞いてね。

・ ピアニストでもまた教師でもあったエステル・パマス・オリンジャーは次のように述べていました。

生徒に出来るかぎりはっきりとした結論を迅速に与えて、満足感を持たせるということが大切なのです。例えば、生徒が全く新しいことを学ぶときや何かをより上達したいといつもレッスンで思っているとします。そんな時は生徒に「私はできる！」「だから絶対にやろう！」と思わせることです。
“生徒にやる気を起こさせることそれが私の仕事なのです。”

ごほうび

・ この頃は「ごほうび」をあげるのによい時期でしょう。この年頃の大半の生徒は自分達の進歩の度合いや努力に対して形のあるもので具体的に評価をすると益々やる気をおこすようになります。ごほうびとしてはシールや可愛い小物などを用意して一生懸命努力した時や、上手に演奏できた時などに渡すようにしましょう。

・ そこで生徒にこの「Iのわおん」でごほうびをもらうには、まず家でちゃんと親の言うことを聞いて、毎日練習をして「魔法の鉛筆」などの助けがなくても、自分でしっかりと和音を弾けるようになることを約束をさせましょう。

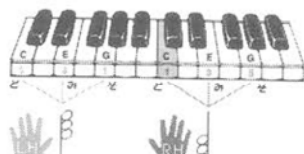
・ もしも次のレッスンの時、子供が助けなしにうまく弾けなくても、1週間とても一生懸命練習したことがわかれば、うんと褒めてごほうびをあげて下さい。一生懸命に頑張ったという努力をほめてあげましょう。

＜結果が出るには時間がかかります。その子の可能性を信じて辛抱強く待ってあげて下さい。「堅忍不拔」こそが大切です。＞



14

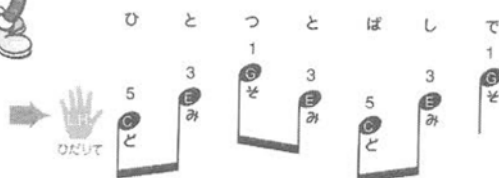
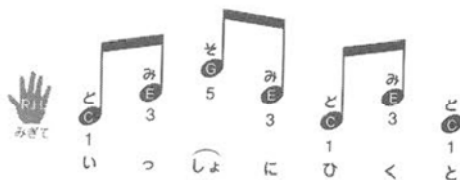
14
ユニット3
 教師の手引き 45ページ
まいにち
 つぎのるとおりでひきましょう。
 1. おとのなまえをいいながら。
 2. こえをだしてかぞえながら。
 3. かしをうたいながら。
 いつもちゅういしましょう。
 1. ただしいてのがたおでひく。
 2. がくふからめをはなさないでひく。



Iのわおん：スキップ（ひとつとばし）
をふたつあわせませす。

わおんを ひこう

Cポジション



WP271J

教師の手引き 45ページ

ねらい

- ここで初めて Iのわおん が登場します。
- Cポジションをひき続き勉強させます。

先生方へのアドバイス

- Iのわおんは2つのスキップが重なってできているということを説明して下さい。
- Iのわおんというのは1, 3, 5の指で同時に3つの音を弾くと話します。そして実際にIのわおんを弾いてあげて下さい。
- まず生徒にCポジションを見つけさせて下さい。
- 【まいにち】に書かれている3つの練習方法で弾かせます。
 1. おとのなまえをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしをうたいながら
- 親に家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそしてレガートで弾くことをしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。
- 生徒と親に和音がちゃんと弾けるようになるには結構時間がかかるということをしっかりと何度も伝え安心させて、落ち着いて取り組めるようにさせて下さい。もしも<魔法の鉛筆>等の助けが必要なら、手がキッチリと良い手の形を覚えるまで遠慮なく使ってもよいと説明することを忘れないで下さい。
- 親にスキップゲーム（3ページの“ここが指導のコツ”を参考に）やステップゲーム（11ページの“ここが指導のコツ”を参考に）を子どもと一緒にひき続きするように話して下さい。

ここが指導のコツ

- 歌詞でうたわせることを続けさせて下さい。どのようにして和音をひけばよいかそのヒントが歌詞になっているので、生徒もそれがわかればよろこんで歌詞を歌うでしょう。

補助教材を併用する際の参考ページ（テキストと同時進行または数週間後）

- 聴音&楽典パーティーB p.15 “C(ど み そ)のわおん”
- パフォーマンスパーティーB p.10 “おにわであそぼう”

15
ユニット3
教師の手引き 45ページ

伴奏：お前は生活のうしろに立って強くとまいでしよう。

C (どみそ) の わおん

Cポジション

WP271J

教師の手引き 45ページ

いっしょに どみそ ひけるか なー 1オク ターフ たかくし て
 こんどは みぎて ひいてみ よう まい にち やってみ よう

ねらい

- ・ Cメジャー(ハ長調)の三和音(Iのわおん)を鍵盤の端から端まで、両手を使って弾かせましょう。
- ・ Iのわおんをここでしっかりと勉強させます。

先生方へのアドバイス

- ・ 生徒と一緒にさし絵からCの和音に必要な3つの音名(C, E, G)を見つけて下さい。
- ・ 15ページの鍵盤を使って歌と歌詞を生徒に教えて下さい。鍵盤が右あがりには書かれていますがこれは生徒に音が低い音から高い音へ上がっていくということを視覚からも理解させることができます。
- ・ 親にこのさし絵の意味を説明して下さい。そうすれば家で子供の練習を手伝う助けになるでしょう。
- ・ 親に家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそしてレガートで弾くことをしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。
- ・ 生徒と親に和音がちゃんと弾けるようになるには結構時間がかかるということをしっかりと何度も伝え安心させて、落ち着いて取り組めるようにさせて下さい。良い手の形をきっちりと覚えるまで遠慮なく「魔法の鉛筆」を使ってもよいと説明することを忘れないで下さい。
- ・ ステップゲームとスキップゲームを子どもとひき続きするよう親に話しましょう。
(「ここが指導のコツ」の3ページと11ページを参考にして下さい。)

16

16
ユニット4
教師の手引き 46ページ

Gポジション

Gポジションのうた(トちょうちょう)

みぎて

1
G A B C D

ぼくはトちょうちょう

ひだりて

5
G A B C D

ぜ ん ぶ

みぎて

I
5 3 1
D B G
れしぜ
はっ け ん

ひだりて

I
1 3 5
D B G
れしぜ

I

WP271J

教師の手引き 46ページ

ねらい

- ここで初めてGポジションを教えて弾かせます。
- 初めて指の番号なしで曲を弾き、ここからステップとスキップを音名(A, B, C)で考えさせます。

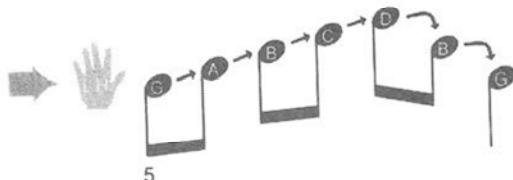
先生方へのアドバイス

- Gポジションを教えたなら鍵盤でその場所を見つけて弾かせましょう。
- Gポジションの音名を片手ずつ言いながら上行形、下行形で弾かせます。
- 生徒に目を閉じさせて、あなたが指示した音を弾かせましょう。
- メロディーの音と音のつながりから音程(スキップ、ステップ)を見つけましょう。
例：先生「G(ソ)はA(ラ)にステップで上がっているのかな、それともスキップかな？」
生徒「G(ソ)はステップで上がってA(ラ)です。」
- 【まいにち】に書かれている3つの練習方法で弾かせます。
 - おとのなまえををいいながら
 - こえをだしてかぞえながら
 - かしをうたいながら
- 親に家ででの練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそして和音の弾き方をしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。
- 生徒と親に和音がちゃんと弾けるようになるには結構時間がかかるということをしっかりと何度も伝え安心させて、落ち着いて取り組めるようにさせて下さい。もしも<魔法の鉛筆>等の助けが必要なら、手がきっちりと良い形を覚えるまで遠慮なく使ってもよいと説明することを忘れないで下さい。

ここが指導のコツ

- 生徒と一緒にこの曲全部の音程(ステップ、スキップ)を見つけましょう。例のように音と音の間に矢印を書き込みながら説明をするとよいでしょう。


例：



補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- 聴音&楽典パーティーB p.18 “かけるかな? Gポジションのおと”
- パフォーマンスパーティーB p.12 “へんしん”

伴 奏



ひこうき

Gポジション

1 2 3 4 5

みぎて そ ら と ぶ ジェット

ひだりて 1 3 5

ねしそ

I

1 2 3 4 5

ひ こ う き が ー ん

ねしそ

I

1 2 3 4 5

みぎて い つ の ま に か く も の

ひだりて 1 3 5

ねしそ

I

1 2 3 4 5

う ぜ

ねしそ

I

ユニット4 17

教師の手引き 46ページ


まいにち

つぎの日とおりでひきましょう。

1. おとのなまえをいながら。
2. こえをだしてかぞえながら。
3. かしをうたいながら。

いつもちゅういしましょう。

1. ただしいのかたずでひく。
2. がくふからめをはなさないでひく。



WP271J

教 師 の 手 引 き 46ページ

ねらい

- ・ここで初めて右手のメロディーに対して左手は I のわおん で伴奏付けをさせます。
- ・Gポジションをひき続き勉強させます。
- ・指の番号なしで曲を弾き、そのかわりステップとスキップを音名(A,B,C)で考えさせます。

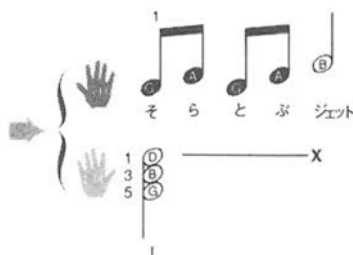
先生方へのアドバイス

- ・Gポジションの音名をいながら片手ずつ上行形そして下行形を弾かせましょう。
- ・生徒に目を閉じさせて先生の指示した音を弾かせます。
- ・左手でまずGの和音を弾く感覚を覚えさせ、同じように右手にもさせましょう。その際必ず生徒の手を持って生徒が身体で和音の感覚を覚えるようにして下さい。
- ・生徒が余裕を持って両手一緒に弾けるようになるまでこうした練習を続けて下さい。
- ・【まいにち】に書かれている3つの練習方法で弾かせます。
- ・親に家ででの練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそして和音の弾き方をしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。
- ・生徒と親に和音がちゃんと弾けるようになるには結構時間がかかるということをしかりと何度も伝え安心させて、落ち着いて取り組めるようにさせて下さい。もしも<魔法の鉛筆>等の助けが必要なら、手がきっちりといい形を覚えるまで遠慮なく使ってもよいと説明することを忘れないで下さい。
- ・親に引き続きステップゲームとスキップゲームを子どもと家でするように話して下さい。(3ページ、11ページの“ここが指導のコツ”を参考にして下さい。)

ここが指導のコツ

- ・右手のメロディーを弾いている間、伸ばしつづける左手の和音の長線で引いて、ここで手をあげるという場所に“X”をつけます。

例：



1 2 3 4 5

そ ら と ぶ ジェット

1 3 5

ねしそ

I

補助教材を併用する際の参考ページ

- ・聴音&楽典パーティーB
- ・パフォーマンスパーティーB

(テキストと同時進行または数週間後)

p.20 “Gポジションのおとさがし”

p.13 “メリーゴーランド”

18

18

ユニット4
教師の手引き 46ページ
まいにち
つぎの3とおりでひきましょう。
1. おとのなまえをいながら。
2. こえをだしてかぞえながら。
3. かしをうたいながら。
いつもちゅういしましょう。
1. ただしいてのめをひく。
2. がくふからめをはささないでひく。



うきうきするね!

Gポジション

ど	よ	う	び	の	あ	さ
5	5					
れ	し	せ				
5	B	E				
ス	キ	ツ	ブ	らん	らん	らん
			1			



Cポジションにてをひいて
おなじように ひいてみましょう。
このように ポジションをかえて
ひくことを「いちよう」といいます。

WP271J

教師の手引き 46ページ

ねらい

- ・ここで初めて移調がでできます。
- ・Gポジションをひき続き勉強させます。
- ・指の番号なしで曲を弾かせ、そのかわりステップとスキップを音名(A,B,C)で考えさせます。
- ・連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・Gポジションの音名を言わせながら片手ずつ上行形、下行形を弾かせましょう。
- ・目を閉じさせてあなたが指示した音を生徒に弾かせましょう。
- ・曲の最後に右手で弾く和音を取り出して練習させます。
- ・曲全体の音程(ステップ、スキップ)関係を見つけさせましょう。16ページの例を参考にして音の進行方向に矢印を書きながら視覚的にも理解させながら、ステップとスキップを覚えるようにしましょう。
- ・【まいにち】に書かれている3つの練習方法で弾きます。
 1. おとのなまえをいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしをうたいながら
- ・「移調をさせましょう。」といっても決して難しいことはありません。まず生徒に手をCポジションに移動させてGポジションの時と同じステップ、スキップのまま弾かせます。この時、進行方向を矢印で書いたことが助けになります。もしも移調して弾く時にどうしても必要ならば指の番号を書き加えてもかまいません。
- ・親に家ででの練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くことそして和音の弾き方をしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。
- ・生徒と親に和音がちゃんと弾けるようになるには結構時間がかかるということをしっかりと何度も伝え安心させて、落ち着いて取り組めるようにさせて下さい。もしも<魔法の鉛筆>等の助けが必要なら、手がきっちりと良い形を覚えるまで遠慮なく使ってもよいと説明することを忘れないで下さい。
- ・親にステップゲームとスキップゲームを子どもと家でひき続きするように話して下さい。
(3ページ、11ページの「ここが指導のコツ」を参考にして下さい。)

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・聴音&楽典パーティーB p.21 “うさぎのびよんた”
- ・パフォーマンスパーティーB p.14 “ホッピング”

伴奏：教8は生徒のうしろに立って弾くとよいでしょう。

ユニット4 19
教師の手引き 46ページ

G(そしれ)の わおん

Gポジション(いちよう：Cポジション)

WP271J

教師の手引き 45ページ

ねらい

- ・ Gメジャー(ト長調)の三和音を鍵盤の端から端まで使って両手で弾かせましょう。
- ・ Iのわおん をここでも勉強させましょう。
- ・ 移調をさせます。

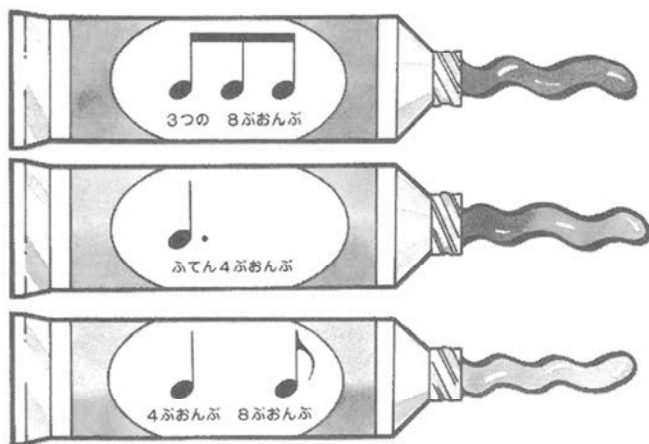
先生方へのアドバイス

- ・ さし絵の中からGの和音の音名(G, B, D)を生徒と一緒に見つけましょう。
- ・ 19ページの鍵盤図を使って歌と歌詞を生徒に教えて下さい。右上がりにかかっている鍵盤の絵は生徒に音が低い音から高い音へ上がっていくことを視覚からも理解させることができます。
- ・ 親にこの図の意味を説明して下さい。そうすれば家で子どもの練習の手助けになるでしょう。
- ・ 生徒と親に和音がちゃんと弾けるようになるには結構時間がかかるということをしっかりと何度も伝え安心させて、落ち着いて取り組めるようにさせて下さい。もしも<魔法の鉛筆>等の助けが必要なら、手がきっちりいい形を覚えるまで遠慮なく使ってもよいと説明することを忘れないで下さい。
- ・ 親にステップゲームとスキップゲームをひき続き子どもと家でするように話して下さい。
(3ページ、11ページの“ここが指導のコツ”を参考にして下さい。)

リズムをたたこう

つぎのしるしをよくみて たたきましょう。

- = ピアノのふたをたたく。
(りょうてでたたいてもよい。)
- X = てをたたく。



WP271J

先生へ：本書では、これらのリズムを $\frac{6}{8}$ 拍子系で導入します。

たたく：
こえをだして：

た さん	た 8	た ぶ	X た さん	X た 8	X た ぶ
た ふ	— てん	あ 4ぶ	た ふ	— てん	あ 4ぶ
X たん 4ぶ	X た 8	X たん 4ぶ	X た 8		

ねらい

- ・ 3種類の新しい音符を勉強させます。3つの八分音符、付点四分音符そして1つの八分音符です。
- ・ 一定の拍をキープしながら、手をたたいたり、ひざをたたいたりしてリズムを身体で感じさせながら教えましょう。
- ・ ここで3つの八分音符を弾く準備をさせましょう。
- ・ 手をたたいたり足踏みしたり楽しんでこれらのリズムを教えてください。

記号の復習

- ・ X: “X”の印のところでは両手をたたかせます。
- ・ —: “—”の印はピアノの上蓋を開じてその上蓋をたたかせます。

先生方へのアドバイス

- ・ 生徒が指番号の数字と混同しないために、ここでもパーティーAの時と同じように、音符の名前を言いながら(1ト2ト3トという数字を使うかわりに)リズムを数えさせることをお勧めします。そして音符の名前をいいながら数えることで、音符の役割を覚えさせることもできます。もしも先生のやり方で他に教えやすい方法があればそちらを使ってこのテキストを教えてください。もちろん結構です！とにかく生徒が一番わかりやすく、やりやすい方法を使って下さい。
- ・ 生徒に新しい音符のリズムを1つずつたいて聞かせたり、テキストを見せたりしながら教えてください。
例: “さん 8 ぶ さん 8 ぶ”
- ・ 生徒と一緒に音符の名前を元気よくいいながら手をたたきリズム練習をさせましょう。生徒に1つの音符に対して手をたたくのは必ず1回ということをお教え下さい。
- ・ 親や生徒と一緒に記号の復習で取りあげた<手をたたく “X”>と<上蓋をたたく “—”>をもう一度説明して下さい。
- ・ ピアノの上蓋を使ってリズムの練習をして下さい。
- ・ レッスンで一緒に練習をしたこのリズム課題を家での宿題として与えて下さい。

ここが指導のコツ

- ・ 3つの八分音符の面白い説明の仕方を紹介します。
3つ八分音符というのは仲良しさんが3人で手をつないでいると説明して下さい。そして生徒にとくに仲良くしているお友達2人の名前をたずねます。そして3つの八分音符の1つには生徒自身の名前、そしてあとの2つには仲良しのお友達の名前を書かせます。それから3つの八分音符に対して3回手をたたかせます。「だって3つの八分音符は3人のお友達でしょ！」と説明します。
- ・ 次に3つの八分音符と付点四分音符の関係を教えましょう。まず生徒と親に3つの八分音符を元気よく音符の名前をいいながら一定の拍でたたかせます。そしてリズムが一定の速さでスムーズにたたき続けられるようになったら、あなたが付点四分音符のリズムと一緒にたたき始めて下さい。勿論、他の音符もこうして違う音符同士の関係を教えてください。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.19 “おんぷさがし”
- p.22 “だいくさん”



あたらしいリズムを ひこう

ゆびとおとにきをつけて、かぞえながら みぎてで ひきましょう。

Gポジション

WP271J

ねらい

- ・リズムに焦点をしばって弾かせるために1つの音（例えばCを3の指で）でリズム譜のリズムを弾かせます。
- ・一定の拍を保てるようにさせましょう。
- ・5つのリズムパターンをGポジションの5つのそれぞれの音を使って弾かせます。
- ・楽譜から目をはなさないで元気よくリズムを数えながら弾かせて下さい。
- ・この練習曲で3つの八分音符、付点四分音符、そして1つの八分音符をこれから勉強する曲の中で弾けるように準備します。
- ・連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・まず生徒に右手のGポジションを見つけさせて下さい。
- ・楽譜の一番下に書かれている緑の矢印の段から弾き始めます。生徒と一緒に1つ1つのリズムのパターンを手をたたきながら元気よく数えましょう。そして、1つの段が終わったら、次の上の段へと進みましょう。
- ・絵に描かれている音を右どなりに示されているゆびばんごうの指を使ってそれぞれのリズムを元気よく数えながら弾かせましょう。
- ・レッスンと一緒に練習をしたこのリズム課題を家での宿題として与えて下さい。

ここが指導のコツ

- ・もし生徒がリズムを読むのにまだ少してこずっているようならば、あなたが指で弾く音符を指で示してあげると弾きやすくなるでしょう。
- ・色々なリズム楽器を使ってこの課題をするとより楽しく勉強ができます。

補助教材を併用する際の参考ページ

(テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB
 - p.24 “おかしでつくる おんぷのおうち”
 - p.27 “おんがくのおくりもの”
- ・ パフォーマンスパーティーB
 - p.18 “わおんのおどり”

22
ユニット5
 教師の手引き 46ページ
まいにち
 つぎの3とおりでひきましょう。
 1. おとのなまえをいいながら。
 2. こえをだしてかぞえながら。
 3. かしをうたいながら。
 いつもちゅういしましょう。
 1. ただしいてのがたはでひく。
 2. がくふからめをはなさないでひく。



パイのおみやげ!

Gポジション (いちよう：Cポジション)



1. こ れ は ね て あ じ く う
 2. お み や げ が どう

1. ほ か ほ か
 2. お お き かく

パ き っ
 イ て よ ね

くりかえしは
 1オクターブ高くひく

WP271J

教師の手引き 46ページ

ねらい

- ・ 20ページで勉強した新しい音符を使って弾く初めての曲です。
- ・ ひき続きGポジション、Cポジションの勉強をします。
- ・ スキップ、ステップの音程を音名(A, B, C)で考えさせましょう。
- ・ 右手のメロディーに対して左手の和音の伴奏付けをさせましょう。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ メロディーのリズムを生徒と一緒に元気よく言いながら手をたたきましょう。
- ・ そのまま生徒にリズムをしっかりと知らせながらメロディーを弾かせましょう。
- ・ 両手を一緒に弾くところが4箇所できます。まずその4箇所から練習をさせて下さい。その時には、右手のメロディーを練習させて、そして左手を練習させてから両手を一緒に弾かせます。その両手で弾く4箇所をつかえてしまわないようにさせましょう。
- ・ 生徒と一緒に音程を見つけてみましょう。16ページで紹介したように矢印を書き込ませます。
- ・ 【まいにち】に書かれている3つの練習方法で弾かせます。
- ・ 移調をさせましょう。まず手をCポジションに移動させてGポジションの時と同じステップ、スキップのまま弾かせましょう。この時、進行方向を矢印で書いたことが助けになります。もしも移調する時にどうしても必要ならば指番号を書き加えてもかまいません。
- ・ 親に家で練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くことそして和音の弾き方をしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。

音楽的な技術上のヒント

- ・ もしも生徒が余裕をもって和音を弾くことができ、両手を上手に使うことができるようならば、両手の**バランス**のことについて話を始めて下さい。
- ・ この曲にかかれてるように右手がメロディーで左手が伴奏の時、実際に生徒の手をとって正しいバランスで弾く時の感覚を“感じ”させて下さい。つまり右手の方に左手より多い目に腕の重さをかけてほんの極々わずか、右手を左手より速く弾かせます。そして左手は右手よりやや少なく腕の重さをかけてゆっくりと鍵盤を押さえるように弾かせます。
 (打鍵のスピードと重さの違いによって作り出す音量のことです。)
- ・ 次は生徒自身に左手の伴奏が右手のメロディーより小さく弾くことができるまで何度も自分の演奏を聞かせ判断をさせましょう。
- ・ ごくわずかですが、一度でさっとこの作業ができる生徒もいます。しかしたいいてい場合は時間がかかります。バランスよい演奏が出来るようになるためには時間がかかります。あの手この手のアドバイスと忍耐そして根気強さが必要なのです。<良い習慣は早い時機に身に付けさせるべきである。>

補助教材を併用する際の参考ページ

(テキストと同時進行また数週間後)

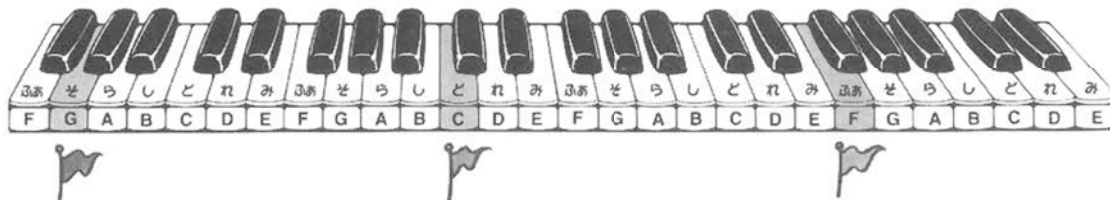
- ・ 聴音&楽典パーティーB p.25
- ・ パフォーマンスパーティーB p.15

“G(そ,し,れ)のわおん”
 “ひみつのかくれが”

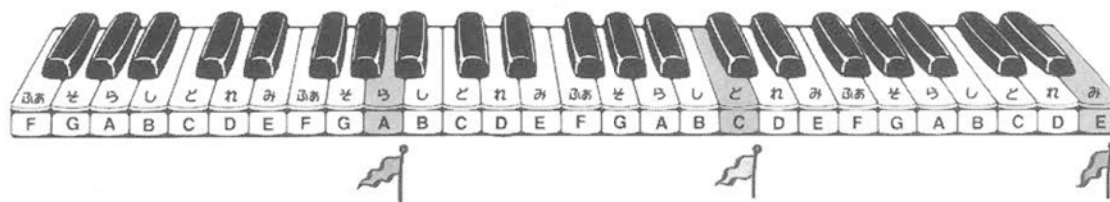
とぼして「すきつぷ」とんでみよう！



ゆびも おとも ひとつ とぼすと「すきつぷ」です。
とぼして「すきつぷ」で あがると どのけんばんですか？ いろをぬりましょう。



とぼして「すきつぷ」で さがると どのけんばんですか？ いろをぬりましょう。



WP271J

ねらい

- ・ 音名(A, B, C)でスキップの確認をさせましょう。
- ・ 旗の色を利用してスキップの音名(A, B, C)を色塗りをしながら勉強をさせましょう。そしてこのスキップの練習は後で出てくる五線譜での<せん>の音、<かん>の音の準備になります。

先生方へのアドバイス

- ・ “スキップゲーム (11ページの“ここが指導のコツ”を参考にして)”を弾かせてスキップの復習をさせましょう。
- ・ 生徒と一緒にまず上の段の左端にある灰色の鍵盤からスキップで上がります。その鍵盤に出発点に書かれている旗と同じ色を塗らせます。そして次に旗の色が変わったところではその変わった色でスキップをした鍵盤に色を塗らせます。
- ・ 生徒と一緒に下の鍵盤図の右端に書かれている灰色の鍵盤から今度はスキップで低い音の方へ下がっていきます。その時も先程と同じようにスタートに立っている旗と同じ色をスキップする鍵盤に塗らせ、違う旗の色のところに来たら新しい色でまた塗り続けさせます。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.23 “「スキップ」のおと”

24

24
 ユニット5
 教師の手引き 46ページ
 まいにち
 つぎの日とおりでひきましょう。
 1. おとのなまえをいいながら。
 2. こえをだしてかぞえながら。
 3. かしをうたいながら。
 いつもちゅういしましょう。
 1. ただしいてのかたちでひく。
 2. がくみからめをはなさないでひく。



伴奏

じてんしゃ きょうそう

Gポジション
 (いちよう: Cポジション)

1
 G A B C D E F G
 い ち に つ い て よ う い ド ン
 1 3 5
 G B C
 ひ だ り て

5 3 1
 G B C
 ひ だ り て

い ち ば ん の り だ れ?
 G A B C D E F G
 1

WP271J

教師の手引き 46 ページ

ねらい

- ・ この曲も3つの八分音符、付点四分音符、そして1つの八分音符の曲を弾かせたり、リズムを数えたりして勉強をさせます。
- ・ GポジションとCポジションをここでも継続的に勉強をさせます。
- ・ これまでと同様に音名(A, B, C)でステップとスキップを考えさせて下さい。
- ・ 和音での伴奏付けを両手ともさせます。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ メロディーのリズムを生徒と一緒に元気よく言いながらたかせましょう。
- ・ 生徒にリズムを元気よくいわせながら、メロディーを弾かせます。
- ・ 両手を一緒に弾くところが4箇所です。まず全体を通して弾く前にその4箇所から練習をさせて下さい。まず右手のメロディーを練習させて、次に左手を練習させてから両手を一緒に弾かせます。その両手で弾く4箇所でつかえてしまわないようにさせましょう。
- ・ 【まいにち】に書かれている3つの練習方法で弾かせましょう。
 1. おとのなまえをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしをうたいながら
- ・ 生徒が自分でできるようになったら、この移調を家での宿題として与えて下さい。そして、次のレッスンでGポジションとCポジションの両方を弾かせましょう。
- ・ 家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くことそして和音の弾き方などをしっかりとチェックして守らせるようにお願いして下さい。

ここが指導のコツ

- ・ 17ページの「メロディーと和音の関係」のところの説明したように、伴奏の和音は伸ばす長さに線を引いて視覚からも理解できるようにして両手をうまく使いこなせるようにさせて下さい。

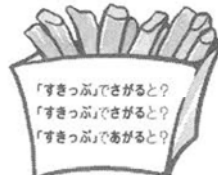
補助教材と併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ パフォーマンスパーティーB p.16 “えさのじかんだよ”
- ・ p.17 “ばらのまわりで”

とぼして「すきっふ」 なんのおと？

ユニット5
教師の手引き 46ページ
まいにち
1. ひくばしょをすくみつけるようにする。
2. がくふがらめをはなさないでひく。
3. かいてあるおとからはじめて、「すきっふ」のおとを
こたえながらひく。

Cのちょう：
(ハちょうちょう)



Gのちょう：
(トちょうちょう)



先生へ：このページは、次のように言葉を付け加えて、すませて下さい。

（例）先生：はじめの音はド、とぼして「すきっふ」であがるとの、生徒：「ド」
先生：その音から、また、とぼして「すきっふ」であがるとの、生徒：「ソ」
先生：その音から、また、とぼして「すきっふ」でさがると?、生徒：「ミ」

WP271J

ねらい

- ・ テキストから目をはなさないでスキップの音程を頭で考えさせて弾かせましょう。
- ・ CポジションとGポジションを頭の中に鍵盤を思い浮かべて考えられるようにさせます。

先生方へのアドバイス

- ・ 生徒に両方の手でCポジションを見つけさせましょう。
- ・ 音名(A,B,C)でスキップが考えられるようにさせましょう。〈どこななの？スキップゲーム〉をしましょう。

どこななの？スキップゲーム：

生徒は1つの問題を正解するたびに1点を得ることができ、〈全問正解で18点満点〉となります。この課題をする時には必ず生徒に〈テキストから目をはなさないで〉正しい音の名前を言わせてゲームをさせましょう。

例： 生徒：左はしのペンキの刷毛にかかっているCの音名を言って弾かせます。
先生：「さあC(ド)からスキップで上がるとなんのおと？」
生徒：「E(ミ)」と音名を言って弾きます。
先生：「じゃあE(ミ)からスキップで上がると今度はなに？」
生徒：「G(ソ)」と音名を言って弾きます。
先生：「では今度はG(ソ)からスキップで下がったらなに？」
生徒：「E(ミ)」と言って弾きます。

- ・ 親に「この課題は決してテキストに答を書かかれないように」と注意して下さい。答をテキストに書いてしまうとその時点で生徒が音名を考るといふ毎日の練習が出来なくなってしまうということをきちんと説明して下さい。
- ・ 親と一緒に毎日この練習問題をして毎回何点をとることができたのが、その結果を書いておくように協力をお願いして下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.26 “ねこさんは なんて ないたかな?”

26

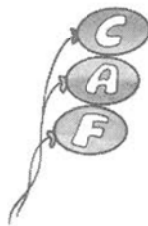
26 ユニット6
 教師の手引き 47ページ
まいにち
 つぎの3とおりでひきましょう。
 1. おとのなまえをいいながら。
 2. こえをだしてかぞえながら。
 3. かしをうたいながら。
 いつもちやういしましょう。
 1. ただしいのがちやうでひく。
 2. がくむがらぬをはなさないでひく。

Fポジションのうた(へちやうちやう)

こっけん(くる)
はっけん(しる)
このしるし「b」をフラットといいます。
すぐした(ひだり)のおとをひくしるしです。
こっけんのとくと はっけんでひくときが あります。

Fポジション

1 2 3 5
1 2 3 5



1
おと F G A B♭ C
みあ F G A B♭ C
ひだりて 1 3 5
C A F
どら F
みあ

しる B A G A B
フラットは



伴奏

スラーフェート
diva

WP271J

5
みぎて C B A G F
「B」につくよ

教師の手引き 47 ページ

ねらい

- ・ Fポジションをここで初めて教わり弾かせます。
- ・ フラットの記号が初めて登場します。
- ・ 連弾を楽しみましょう。


先生方へのアドバイス

- ・ フラットの記号を教えましょう。そしてフラットをつけた音の弾き方を教えましょう。生徒にフラットの記号を見せてそしてフラットをつけた音を弾かせましょう。家での宿題としてこのフラットを音符につける練習をさせて下さい。
- ・ Fポジションを教え生徒と一緒に見つけます。そして右手の4の指、左手の2の指はB(シ)のフラット(黒鍵)におくように説明をして下さい。
- ・ Fポジションを弾かせる時にはCポジションやGポジションの時より、少し鍵盤の内側に手を構えさせるように注意して下さい。そうするとB(シ)のフラット(黒鍵)が弾きやすくなります。
- ・ Fポジションの音名を言わせながら片手ずつ上行形、下行形を弾かせましょう。
- ・ 生徒に目を閉じさせてあなたが示した音を弾かせます。これは鍵盤を見なくても頭の中で鍵盤を思い浮かべることができるようになるための良い訓練になります。
- ・ 【まいにち】に書かれている3つの方法で練習させて下さい。
 1. おとのなまえをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしをうたいながら
- ・ 親に家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズムそして和音の弾き方をしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.28 “フラットのおと”
p.29 “かけるかな? Fポジションのおと”
- ・ パフォーマンスパーティーB p.20 “やどかりさんのうちさがし”

伴奏



ユニット6 27

教師の手引き 47ページ

まいにち

つぎの3とおりでひきましょう。

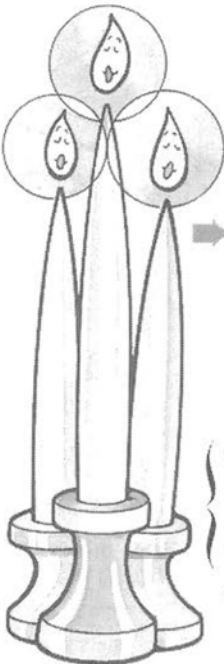
1. おとのなまえをいしながら。
2. こえをだしてかぞえながら。
3. かしをうたいながら。

いつもちゅういしましょう。

1. ただしいてのかたちでひく。
2. がくみからめをはなさないでひく。

クリスマス

Fポジション (いちよう:C、Gポジション)



3
ら A

ぼわっ

みぎて
ひだりて

1 3 5
A ー A
F ー F

5 3 1
C ー C
A ー A
F ー F


お ど り だ す

ひだりて
1

ら A
ら A
ら A
ら A
ら A
ら A

ら A
ら A
ら A
ら A
ら A
ら A

ら A
ら A
ら A
ら A
ら A
ら A



WP271J

教師の手引き 47 ページ

ねらい

- ・ ここでも付点四分音符、1つの八分音符、3つの8分音符の勉強をします。
- ・ Fポジション、GポジションそしてCポジションの勉強をしっかりと身につくようにさせましょう。
- ・ 音名(A,B,C)でスキップ、ステップの音程を考えさせましょう。
- ・ 両手ともに和音での伴奏付けをさせます。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ メロディーのリズムを元気よく生徒と一緒に言いながらたたきます。
- ・ 両手を一緒に弾くところが4箇所できます。そこで全体を通して弾く前に次の練習をさせて下さい。まず右手のメロディーを練習させ、そして左手を練習させてから両手を一緒に弾かせます。両手で弾く4箇所のところまではスムーズに弾けるようにさせましょう。
- ・ 【まいにち】に書かれている3つの方法で練習させて下さい。
 1. おとのなまえをいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしょうたいながら
- ・ あなたの手助けがなくても生徒ができるようになれば、この移調を家で宿題として与えて下さい。そして次回のレッスンの時にCポジションまたはGポジションのどちらかに移調して弾かせましょう。
- ・ 親に家で練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くことそして和音の弾き方などをしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。

ここが指導のコツ

- ・ 17ページ“メロディーと和音の関係”のところの説明したように、伴奏の和音の伸ばす長さに線をひいて視覚的にも理解できるようにして、両手をうまく使いこなせるようにさせて下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

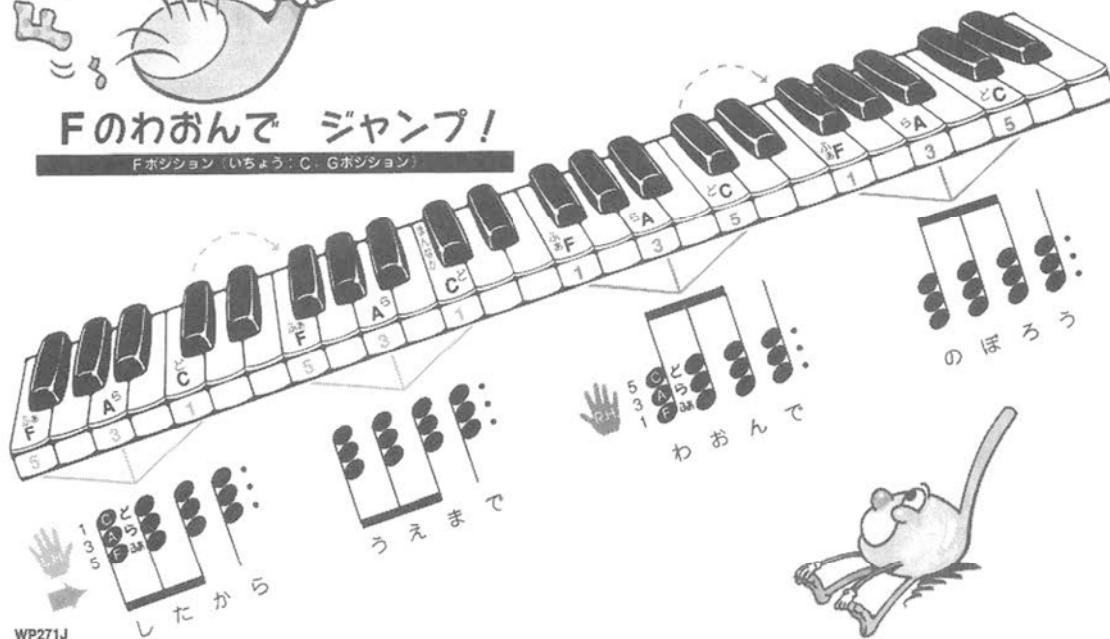
- ・ 聴音&楽典パーティーB p.32 “Fポジションのおとさがし”
- ・ パフォーマンスパーティーB p.19 “おさるのバンド”

28
 ユニット6
 教師の手引き 47ページ



Fのわおんで ジャンプ!

Fホジション (いちょう・C、Gホジション)



WP271J

教師の手引き47ページ



ねらい

- ・ Fメジャー(へ長調)の和音を鍵盤の端から端まで両手で弾かせます。
- ・ Iのわおんの勉強をここでもさせましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ さし絵の中からFの和音(F, A, C)のアルファベットを生徒と一緒に見つけましょう。
- ・ 28ページに書かれている鍵盤図を使って歌と歌詞を教えて下さい。右あがりに書かれている鍵盤図は、生徒に音は低い音から高い音へ上がっていくことを視覚的にも学習させるようになっています。
- ・ 親に鍵盤図の意味を説明して下さい。そうすれば家で子どもの練習の手助けになるでしょう。
- ・ 親に家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くことそして和音の弾き方などをしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。

おとまり「すてっぷ」あがる さがる

おとまり「すてっぷ」は、すくうえのおとが すくしたのおとをひきます。
おとまり「すてっぷ」のおとを かきましょう。

おとまり「すてっぷ」であがる(すくうえのおと)

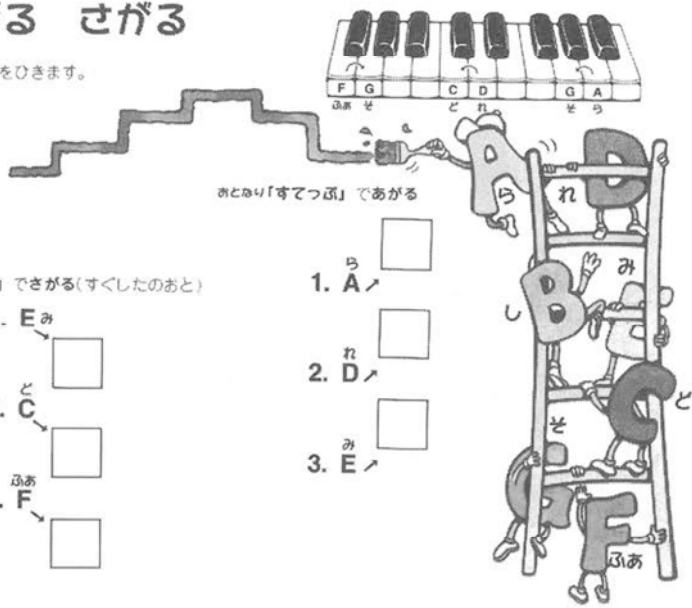
1. ぞ Gノ
2. あ Fノ
3. し Bノ

おとまり「すてっぷ」でさがる(すくしたのおと)

1. あ Eノ
2. と Cノ
3. あ Fノ

おとまり「すてっぷ」であがる

1. ら Aノ
2. れ Dノ
3. あ Eノ



けんばんに、おとまり「すてっぷ」のおとを かきましょう。



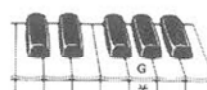
おとまり「すてっぷ」でさがる



おとまり「すてっぷ」であがる



おとまり「すてっぷ」でさがる



おとまり「すてっぷ」であがる

WP271J

ねらい

- ・五線譜になって線と間の音を勉強するときのために音名(A,B,C)でステップをしっかりと理解させましょう。そのためにここでは書くことでその知識を確実に身につけさせます。
- ・鍵盤図の上でステップの音名(A,B,C)を書き込むことで視覚的なステップの音程を身につけさせます。

先生方へのアドバイス

- ・ステップの音程の復習をさせましょう。
- ・生徒と一緒にページの上にかかれている課題をしましょう。四角の中にステップで上がったたり下がったりした時の音を書きましょう。
- ・次に下にかかっている鍵盤図の問題をさせましょう。ステップで上がったたり下がったりした時の音名(A,B,C)を書き入れましょう。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・聴音&楽典パーティーB p.30 " すべりだい

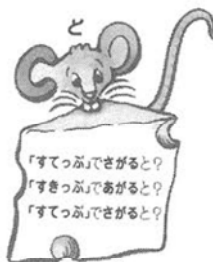
30
 ユニット6
 まいにち
 1. ひくばしょをすぐみつける。
 2. がくふからめをはなさないでひく。
 3. かいてあるおとからはじめて「すてっふ」や「すきっふ」のおとをこたえながらひく。

まちがえないで！ なんのおと？
 「すてっふ」と「すきっふ」

Fのちょう：
 (へちょうちょう)



Gのちょう：
 (とちょうちょう)



WP271J

先生へ：このページは、次のように言葉を付け加えて、すすめて下さい。
 (男)先生：はじめの音はファ、おとなり「すてっふ」で あがると？ 生徒：「ソ」
 先生：その音から、また、おとなり「すてっふ」で あがると？ 生徒：「ラ」
 先生：その音から、また、とばして「すきっふ」で あがると？ 生徒：「ド」

ねらい

- ・音名(A,B,C)でステップやスキップをゲーム感覚で楽しみながら、しっかりと覚えさせましょう。
- ・FポジションとGポジションを弾いてしっかりと覚えさせましょう。

先生方へのアドバイス

- ・両手ともにFポジションを見つけさせましょう。
- ・このゲームをするにあたり得点を獲得するには『楽譜から目をはなさないで弾き続けること』と生徒に話しておきましょう！
- ・<「スキップ」「ステップ」探し>のゲームを25ページの“先生方へのアドバイス”を参考にさせてあげましょう。このゲームは全問正解で18点満点です。生徒が必ず楽譜から目をはなさないで正しい音をしっかりと弾くことができると1点が与えられます。
- ・この課題は決して答を書かせないようにと親に注意して下さい。答をテキストに書いてしまうと、生徒が毎日の練習で音名を考えるとこの習慣ができなくなってしまうことをきちんと説明して下さい。
- ・毎日、親と一緒にこの練習問題をして毎回何点とることができたのか、その結果を書いておくように協力をお願いして下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・聴音&楽典パーティーB p.31 “おなじとちがう”



ぴっかぴかの カレンダー

Fポジション (いちよう：C、Gポジション)

1

あ た ら し い と し の

か れ ん だ ー め く ろ う

みきて
ひたして

みきて
ひたして

1 3 5
C A F

5 3 1
C A F

と し
し
ら
あ
と
し
の
め
く
ろ
う

と
し
ら
あ
と
し
の
め
く
ろ
う



31

ユニット6
教師の手引き 47ページ

まいにち

つぎの日とおりでひきましょう。

- おとのなまえをいいながら。
- こえをだしてかぞえながら。
- かしをうたいながら。

いつもちゅういしましょう。

- ただしてのがたちでひく。
- がくみからめをはささないでひく。



WP271J

教師の手引き47ページ

ねらい

- ・ Fポジション、Cポジション、Gポジションでしっかりとここでも弾かせましょう。
- ・ ステップとスキップを音名(A, B, C)で考えさせましょう。
- ・ 両手ともに和音での伴奏付けをさせます。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ メロディーのリズムを元気よく生徒と一緒に言いながらたたきましょう。
- ・ 生徒にそのままリズムをしっかりと知らせながらメロディー(まず右手そして左手)を弾かせます。
- ・ 両手を一緒に弾くところが4箇所できます。その4箇所を練習させてから全体を通して弾かせて下さい。まず右手のメロディーを練習させて、次に左手を練習させてから両手一緒に弾かせます。両手を使って弾く箇所ですべて止まってしまうようにさせましょう。
- ・ 【まいにち】に書かれている3つの方法で練習させて下さい。
 1. おとのなまえをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしをうたいながら
- ・ 先生の手助けがなくても生徒が自分でできるようになったら、この移調を家での宿題として与えて下さい。そして次のレッスンにてCポジションまたはGポジションのどちらかに移調して弾かせましょう。
- ・ 親に家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くことそして和音の弾き方などをしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。

ここが指導のコツ

- ・ 17ページを参考にして和音の伸ばす長さを書いて弾かせましょう。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.33 “まどに あめがぼたぼた”
- ・ パフォーマンスパーティーB p.21 “きょうそう”

32

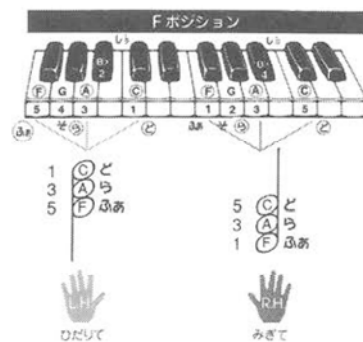
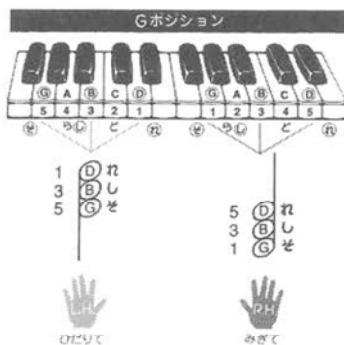
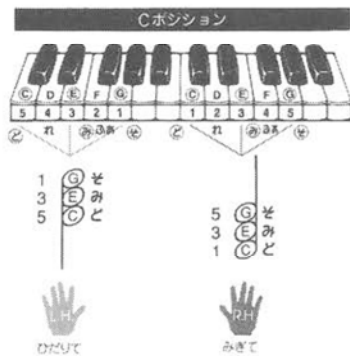
32
ユニット7
 教師の手引き 47ページ

グループ I のちょう

C G F



Cメジャー(ハちょうちょう)、Gメジャー(トちょうちょう)、Fメジャー(ヘちょうちょう)のIのわおんは、ぜんぶはっけんでひくので、「グループI」のちょうといひます。Fメジャー(ヘちょうちょう)だけは、5ほんのゆびでひくときに、ひとつだけこっけんをつがいます。(ひだりて2のゆび、みぎて4のゆび)



WP271J

ねらい

- Cポジション、GポジションそしてFポジションの共通点と違う点を説明しましょう。そしてこれらの3つを「グループIの調」と呼びます。というのもそれぞれの主和音（Iのわおん）になる3つの音を全部白鍵で弾くからです。
- これらC、GそしてFの3つのポジションを使った曲を弾く準備をここでさせます。

先生方へのアドバイス

- 32ページの「グループIの調」を説明して下さい。まず12の調をそれぞれの調の主和音の形で4つのグループに分けます。そこでC、GそしてFの3つを「グループIの調」とします。というのもそれぞれの「Iの和音(主和音)」となる3つの音を全部白鍵で弾くからです。
- ただし「グループI」ではFだけがちょっと他と違って、それは5指ポジションで弾く時に左手2の指と右手4の指が黒鍵になるからです。32ページのさし絵でよりはっきりとそれが説明できるでしょう。
- 「グループIの調」を日々の練習の時に繰り返し復習させ、生徒に確実に覚えさせるようにして下さい。

ここが指導のコツ

- 「グループIの調」を子どもによりわかりやすく説明するのに先生方のユニークなアイデアが大きな手助けになるでしょう。たとえば、発泡スチロールを切餅のような小さな積み木のように切って、その3つを使ってより具体的に示せる等...身近にあるものを活用して下さい！

補助教材を併用する際の参考ページ(テキスト同時進行または数週間後)

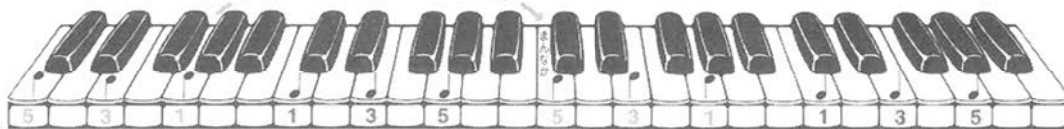
- 聴音&楽典パーティーB p.34 “グループIのちょう”



まほうのハープ

このきよくの ひきがたは：

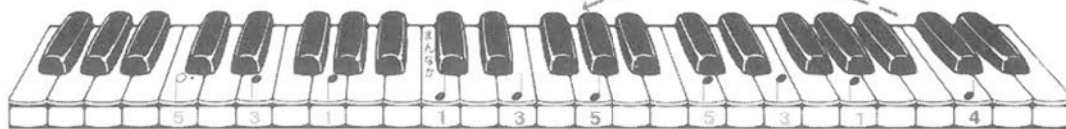
1. ひだりての5の伸びで、C(ど)をひいて、とほして「すきつゝ」であります。



2. つぎに、F(ふぁ)から、とほして「すきつゝ」であります。

3. もういちど、G(そ)から、とほして「すきつゝ」であります。

4. さいごは、C(ど)を4の伸びでひき、Cポジションをはんたい(そみど)にさがっております。



WP271J

教師の手引き 47ページ



ねらい

- ・ C, G, F の3つのポジションを組み合わせせて弾かせます。

先生方へのアドバイス

- ・ “まほうのハープ” の鍵盤図を使って練習の仕方を説明します。幾つかの部分に分けてそれを暗譜で弾けるようにと教えます。まず：1. 低いC(ド)に左手の5の指をおいてそこからスキップで上がっていき、5, 3, 1の左手の指で弾いたら今度は右手で同じことを(但し右手は1, 3, 5の指の順で)繰り返していきます。
- 2. 低いF(ファ)に左手の5の指をおいてそこからスキップで上がっていき、5, 3, 1の左手の指で弾いたら今度は右手で同じことを(但し右手は1, 3, 5の指の順で)繰り返していきます。
- 3. 低いG(ソ)に左手の5の指をおいてそこからスキップで上がっていき、5, 3, 1の左手の指で弾いたら今度は右手で同じことを(但し右手は1, 3, 5の指の順で)繰り返していきます。
- ・ こうして3つに分けて練習したものを1, 2そして3と続けて弾かせます。
- ・ 生徒がこの3つを楽々と弾けるようになったら次の第4のステップに進ませます。
- 4. 低いCを始めとして弾き、ひき続き低いFから弾きそして低いGからを弾いたらそのすぐ後に高いC(ド)を右手の4の指で弾き左手からCポジションを使って今度はスキップで下がっていきます。
- ・ ここまでのことが全部弾けるようになったらこの曲全体を通して弾かせましょう。
- ・ 親にもこの鍵盤図の説明をしてどういうふうに弾かせるのがよく説明をして下さい。

音楽的な技術上のヒント

- ・ 両手を交互に使うレガートの音を生徒によく聞かせて下さい。

34

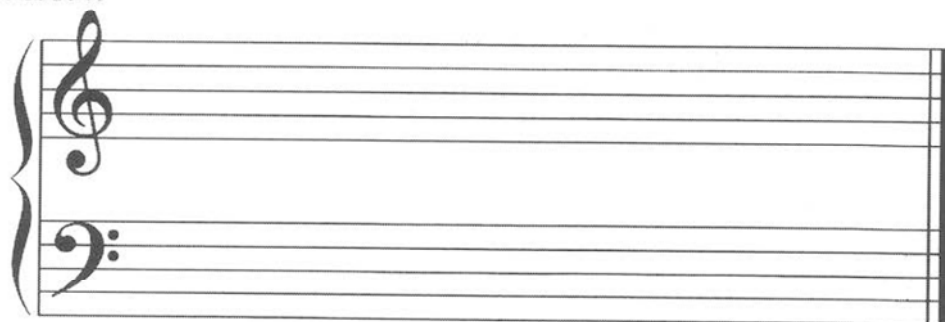
34
 ユニット7
 教師の手引き 47ページ

だいふひょう

おんぷはだいふひょうにかきます。

とおんきごう

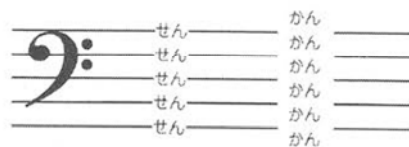
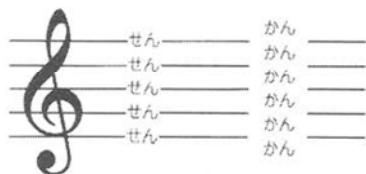
へおんきごう



うえのだんにあるしるしを とおんきごうといいます。

したのだんにあるしるしを へおんきごうといいます。

かくふには、せんがらほんあります。
 おんぷは、せんのうえ(せん)と せんのあいだ(かん)に かくことができます。



- だいふひょうのせんを みどりでなぞりましょう。
- かんを オレンジでぬりましょう。

WP271J

ねらい

- ・ ト音記号、へ音記号、<せん>と<かん>そして大譜表を教えます。
- ・ 大譜表の<せん>と<かん>の関係を色塗りをさせて理解しましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ ト音記号、へ音記号そして<せん>と<かん>をここで紹介します。
- ・ ページの下に書かれている説明を生徒と一緒に読みましょう。そしてまず五線譜で隣り合っている2本の線を見つけさせ、緑のクレヨン(色鉛筆でもサインペンでもよい)でその2本の線をなぞらせます。次にその緑色になった2本の線と線の間をオレンジ色のクレヨン(色鉛筆でもサインペンでもよい)でぬらせます。
- ・ 後の残りの<せん>と<かん>は、家での宿題として与えて下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.35 “とおんきごうと へおんきごう”

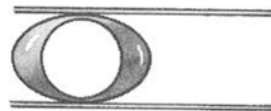
せんとかんのおと

35
ユニット7

これは せんのおんが です。
まんながにせんが とおっています。

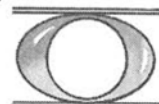
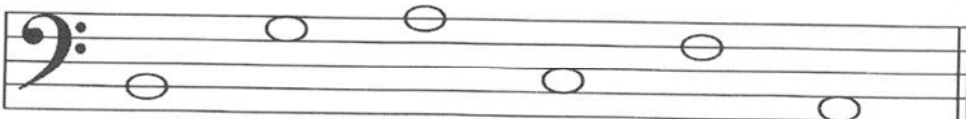
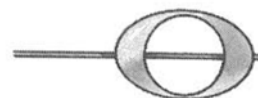
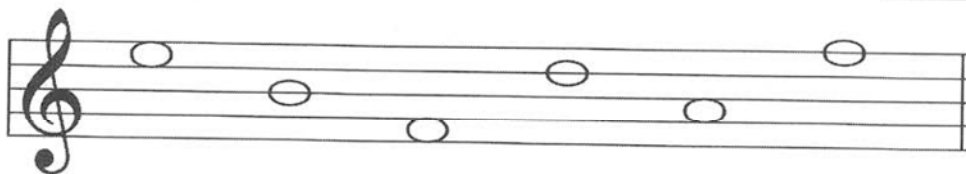


これは かんのおんが です。
せんとせんのあいだに、
はさまっています。

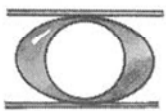


おんがにいろをぬりましょう。

■ せんのおんが — あか ■ かんのおんが — あお



せんのおんがとかんのおんがをかいてみましょう。



WP271J

ねらい

- ・ 五線譜の<せん>の音と<かん>の音をここで教えます。
- ・ 色塗りをさせながら五線譜の<せん>と<かん>の音の概念を理解させましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ <せん>の音をよく説明してきっちりと教えて下さい。<せん>の音というのは串だんごのように線が音符の真ん中を通っていると説明して下さい。
- ・ <かん>の音をよく説明してきっちりと教えて下さい。<かん>の音というのは線と線の間にはさまれていると説明して下さい。
- ・ ページの上にかかれている説明を生徒と一緒に読みましょう。そして<せん>の音を赤で<かん>の音は青で色を塗らせて下さい。
- ・ ページの下にかかれている説明を生徒と一緒に読みましょう。そして1本線には<せん>の音を、2本線には<かん>の音を鉛筆で書かせましょう。
- ・ そしてこれらの課題は、レッスン中にいくつかずつさせて残りを家での宿題にして下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

・ 聴音&楽典パーティーB

p.36 “せんとかんのおと”

36

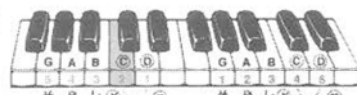
36

ユニット7
教師の手引き 49ページ

ぞくしち(V7)って いいおとね

Gポジション (いちよう・C、Fポジション)

おんぶのうえか したに ついてるてんを
スタッカートといいます。
おとをみじかくきって ひきたいときに つかいます。



1. う え の ふ た つ も
2. ほ か の ば しょ で も

いっ ひ しょ なる
と ね
ひたひて 1 2
V7

みぎて ね と
ひ い た ら ほ ら
ぞ く し ち わ おん

ぞく しん ち
か ん たん
と ね
ひたひて
V7 I

伴奏：生徒は1オクターブ高くひきます。

WP271J

教師の手引き49ページ

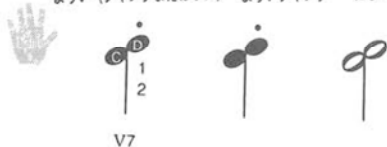
ねらい

- ・ スタッカートの音を初めてここで教えて弾かせます。
- ・ ここで初めて、ぞくしち (V7) の和音を2つの音で教え弾かせます。
- ・ ここでもG,CそしてFポジションの勉強をさせます。
- ・ ステップとスキップの音程を音名(A,B,C)で考えるようにさせます。
- ・ 和音を弾きます。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ ぞくしち(V7)の和音を2つの音で教えます。ぞくしち(V7)の和音を弾くにはポジションの上2つの音を弾けばよいと説明して下さい。
- ・ スタッカートの音をまず生徒に聞かせて下さい。そして音符の上または下にある小さな点がスタッカートだということを説明して下さい。
- ・ 左手でスタッカートの音を弾かせます。その弾き方はまず鍵盤に指をおいて押すようにして素早く上げさせます。まず<小さな音>で弾かせてその弾いた音を注意深く聞かせましょう。速くならないで平均して同じようにスタッカートの音を弾かせるために、生徒に弾き方を言葉でいいながら弾かせるお手助けになります。

例： ようい (ジャンプまたはボン) よういジャンプ にぶ おんぶ




- ・ 【まいにち】に書かれている3つの方法で練習させて下さい。
- ・ 助けがなくても生徒が自分でできるようになったら、この曲を移調して弾く課題を家での宿題として与えて下さい。そして次のレッスンでもCまたはFのポジションで弾かして下さい。
- ・ 親に家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くこと、スタッカートのタッチそして和音の弾き方などをしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)


- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| ・ 聴音&楽典パーティーB | ・ パフォーマンスパーティーB |
| p.37 "Fメジャー(へちょうちょう)のIとVのわおん" | p.22 "ジュースやさん" |
| p.38 "おなじとちがう" | p.23 "ぼくじょう" |
| p.39 "IとV7のわおんのおと" | p.24 "てじな" |

伴奏




ぼくのあたらしい ペンだよ

Gポジション
(いちょう: F, Gポジション)




3
み れ み と

1 ほ ら み て
2. す て き な



1 3 5
ぞ み と


ぼ く の



5
ぞ

き れ い な い ろ っ

だ い じ な た か ら も



1 3 5
ぞ み と

こ ばい の

ユニット 8

教師の手引き 49ページ

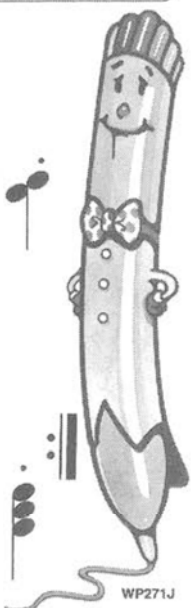
まいにち

つぎの3とおりでひきましょう。

1. おとのなまえをいいながら。
2. こえをだしてかぞえながら。
3. かしをうたいながら。

いつもちゅういしましょう。

1. ただしいてのがたずでひく。
2. がくらのめをはなさないでひく。



WP271J

教師の手引き 49ページ

ねらい

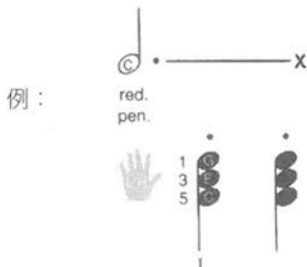
- ・ C, F そして G のポジションをひき続き勉強させます。
- ・ 音名(A, B, C)でステップとスキップの音程を考えさせます。
- ・ I と V 7 の2つの和音を弾かせます。
- ・ 連弾を楽しみましょう。

先生方へのアドバイス

- ・ メロディーのリズムを元よく生徒と一緒に言いながらたたきましょう。
- ・ まず左手のスタッカートの和音を練習させましょう。
- ・ 3箇所、右手のメロディーの音を伸ばしている間に2つのスタッカートの音を弾くところがあります。そこでまずこの3箇所を練習させましょう。その時右手で伸ばしているメロディーの音の邪魔にならないように小さく左手の和音を弾かせ、生徒自身にその音のバランスをしっかりと聞かせるようにして下さい。
- ・ 【まいにち】に書かれている3つの方法で練習させて下さい。
 1. おとのなまえをいいながら
 2. こえをだしてかぞえながら
 3. かしをうたいながら
- ・ 助けがなくても生徒が自分でできるようになったら、家での宿題としてこの曲を移調して練習をさせて下さい。そして次のレッスンでFまたはGのポジションで弾かせて下さい。
- ・ 親に家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くこと、スタッカートのタッチそして和音の弾き方などをしっかりと家でチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。

ここが指導のコツ

- ・ メロディーで伸ばす音に線をひいて伸ばす長さをわかりやすくしましょう。



補助教材を併用する際の参考ページ

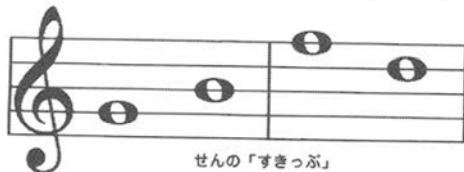
- ・ パフォーマンスパーティー B
- (テキストと同時進行または数週間後)
- p.25 “このきよくなまえをつけましょう”
- p.26-27 “いぬのしょうぼうし”

38

38
 ユニット8
 教師の手引き 49ページ

とほして「すきつぷ」

これが「すきつぷ」です。つぎのせんにあがったり、さがったりします。



せんの「すきつぷ」

これも「すきつぷ」です。つぎのかんにあがったり、さがったりします。

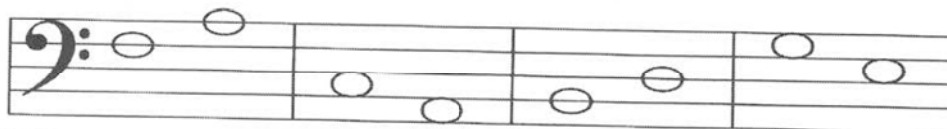
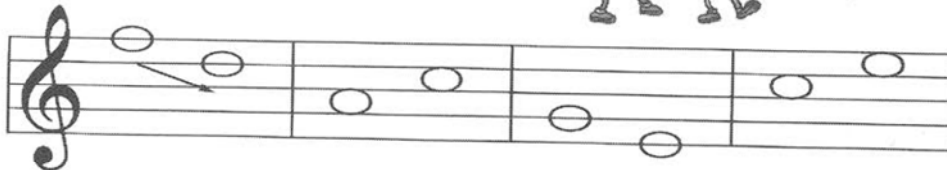
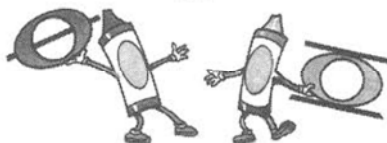


かんの「すきつぷ」

おんぷにいろをぬりましょう。

■ せんのおんぷ—あか ■ かんのおんぷ—あお

おんぷのうごくほうに、やじるし(→)をかきましょう。



WP271J

ねらい

- ・五線譜でのスキップの音程をここで教えます。
- ・音符に色塗りをさせて<せん>の音と<かん>の音、上がる下がるという概念を教えます。

先生方へのアドバイス

- ・五線譜でスキップをここできちんと説明しましょう。

生徒にこういいます：

「スキップというのは1つの<せん>からすぐとなりの<せん>に動くことで、上がったり下がったりするのよ。」

または

「スキップというのは1つの<かん>からすぐとなりの<かん>に動くことで、上がったり下がったりするよ。」

- ・ページの真ん中に書かれている説明を生徒と一緒に読みましょう。

1. <せん>の音に赤色をぬらせましょう。

2. <かん>の音に青色をぬらせましょう。

3. 五線譜のスキップが上がっているか下がっているか矢印を書いて教えましょう。

- ・課題のいくつかはレッスンの時に生徒と一緒に色をぬらせたり、矢印を書かせたりして、残りを家での宿題として与えましょう。

補助教材を併用する際の参考ページ

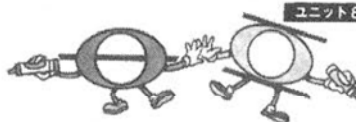
- ・聴音&楽典パーティーB

(テキストと同時進行または数週間後)

p.40 “かきましょう”

「スキップ」のおんぷ かこう!

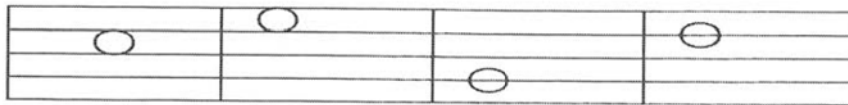
39
ユニット8



おんぷをかきいれて、いろをぬりましょう。

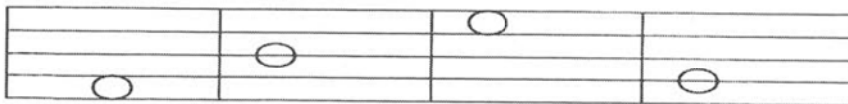
■ せんのおんぷ—あが ■ かんのおんぷ—あお

1日目
とおんきごうをかく



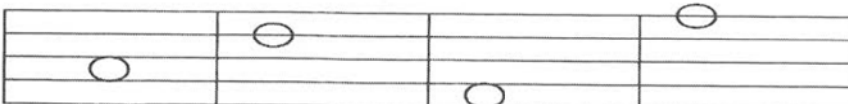
「スキップ」であがる 「スキップ」でさがる 「スキップ」であがる 「スキップ」でさがる

2日目
へおんきごうをかく



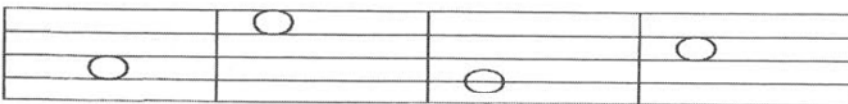
「スキップ」であがる 「スキップ」でさがる 「スキップ」でさがる 「スキップ」であがる

3日目
とおんきごうをかく



「スキップ」でさがる 「スキップ」であがる 「スキップ」であがる 「スキップ」でさがる

4日目
へおんきごうをかく



「スキップ」であがる 「スキップ」でさがる 「スキップ」でさがる 「スキップ」であがる

WP271J

先生へ：次の言葉を付け加えてすすめて下さい。(例)とほして「スキップ」であがる。

ねらい

- ・ スキップの音程を五線譜に書かせたり色塗りをさせたりしながら生徒にしっかりと身につかせましょう。
- ・ ト音記号、へ音記号を書かせます。

先生方へのアドバイス

- ・ 生徒に次のことを復習させて下さい。

スキップというのは1つの<せん>からすぐとなりの<せん>に動くことで、上がったたり下がったりすること。

または

スキップというのは1つの<かん>からすぐとなりの<かん>に動くことで、上がったたり下がったりすること。

- ・ ページの一番上にかかっている説明を生徒と一緒に読みましょう。
 1. 1段目の五線の指示されている場所にト音記号を書きましょう。
 2. 1番最初の場所の音符をさして、<せん>の音なのか<かん>の音なのかをたずねましょう。
 3. まず“スキップで上がる”という指示を生徒と一緒に読んでから、生徒にあてはまる音をかかせましょう。
 4. 最初の問題は<かん>なので青色をぬらせましょう。
- ・ 課題のいくつかは生徒と一緒に書かせたり、色をぬらせたりさせて、残りは家での宿題として与えましょう。
- ・ 親と生徒に繰り返して課題をすることで確実に知識が身につく、課題もまとめて一気にしないで指示通りに4日間にわたって練習することが大切なのを十分に説明して下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB p.41 “「スキップ」のおと”

40

40
ユニットB
教師の手引き 49ページ

せいじゃがまちに やってくる

こえをだしてかぞえる： 4拍 4拍 4拍 ぜん あんが のは そう 4拍

WP271J

教師の手引き 49ページ

ねらい

- ・ Cポジションをここでも勉強させます。
- ・ この曲もスキップ、ステップの音程を音名(A, B, C)で考えさせて下さい。
- ・ IとV7の和音を弾かせます。

先生方へのアドバイス

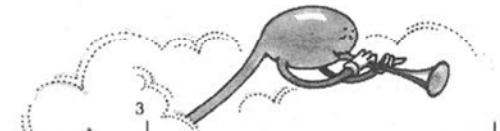
- ・ まず左手だけの練習をさせましょう。
- ・ この曲では右手がメロディーも音を伸ばしている間に左手の伴奏(和音または1つの音だけ)を弾くところが5箇所できます。そこで全体を通して弾く前にこの5箇所を抜き出して練習させて下さい。まず右手のメロディーをしっかりと練習して音がきちっと伸ばせるようになったら左手の伴奏をメロディーの邪魔にならない小さな音で弾かせ、その音のバランスを生徒自身によく聞かせて下さい。
- ・ 1段ごとに練習をさせて下さい。41ページの3段目はリズムがとても難しいので特に注意をして練習させて下さい。
- ・ 【まいにち】に書かれている3つの方法で練習させて下さい。
 1. おとのなまえをいいながら
 2. こえをだしながら
 3. かしをうたいながら
- ・ 親に家での練習の時、子どもの手の位置と形、リズム、レガートで弾くこと、スタッカートのタッチそして和音の弾き方をしっかりとチェックして守らせるように協力をお願いして下さい。

補助教材を併用する際の参考ページ (テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB

p.42	“ほうしをかけて”
p.43	“コックさん”
- ・ パフォーマンスパーティーB

p.28	“あめつぶたちのおどり”
------	--------------



3
み ね こ
み ん な
1 3 5
2 4 6
I

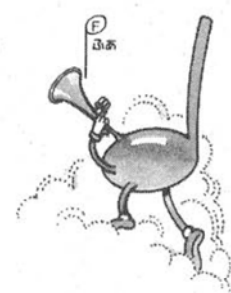
かぞえる: ふてん 2が あんが 2が あんが

ふあ ね ね ぶあ
しよ に き あ

3
み ぶ せ
み ん き に ね あ る
1 3 5
2 4 6
I

1 2
ふあ せ
I V7

2
ふあ



ふあ

1 3 5
2 4 6
I

42

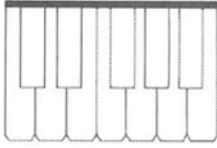
42
ユニット8

ポジションのふくしゅう

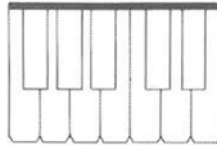
けんばんにするしをつけましょう。

1. 5ほんのゆびを おくばしよは、どこですか？

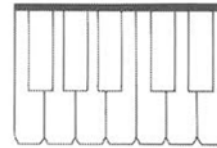
Cのちよう(ハちようちよう)



Fのちよう(ヘちようちよう)

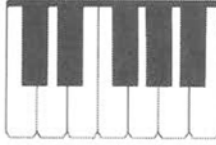


Gのちよう(トちようちよう)



2. Iのわおんを ひくばしよは、どこですか？

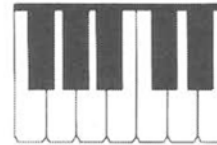
Cのちよう(ハちようちよう)



Gのちよう(トちようちよう)



Fのちよう(ヘちようちよう)



WP271J

ねらい

- ・ C, G そして F ポジションと I の和音をここでしっかりと覚えさせます。
- ・ <グループ I の調>について生徒がどの程度覚えているかチェックします。

先生方へのアドバイス

- ・ 1 番の問題を生徒と一緒に読みましょう。そして鍵盤図にそれぞれのポジションの音名を書かせて下さい。
- ・ 2 番の問題を生徒と一緒に読みましょう。そして鍵盤図にそれぞれのポジションでの I の和音の音名を書かせましょう。
- ・ この課題はレッスンの時に全部させましょう。そして、この課題を生徒がどの程度できたかによって C, G, F のポジションをどれほど理解して覚えているかを知る手がかりにしてください。

補助教材を併用する際の参考ページ

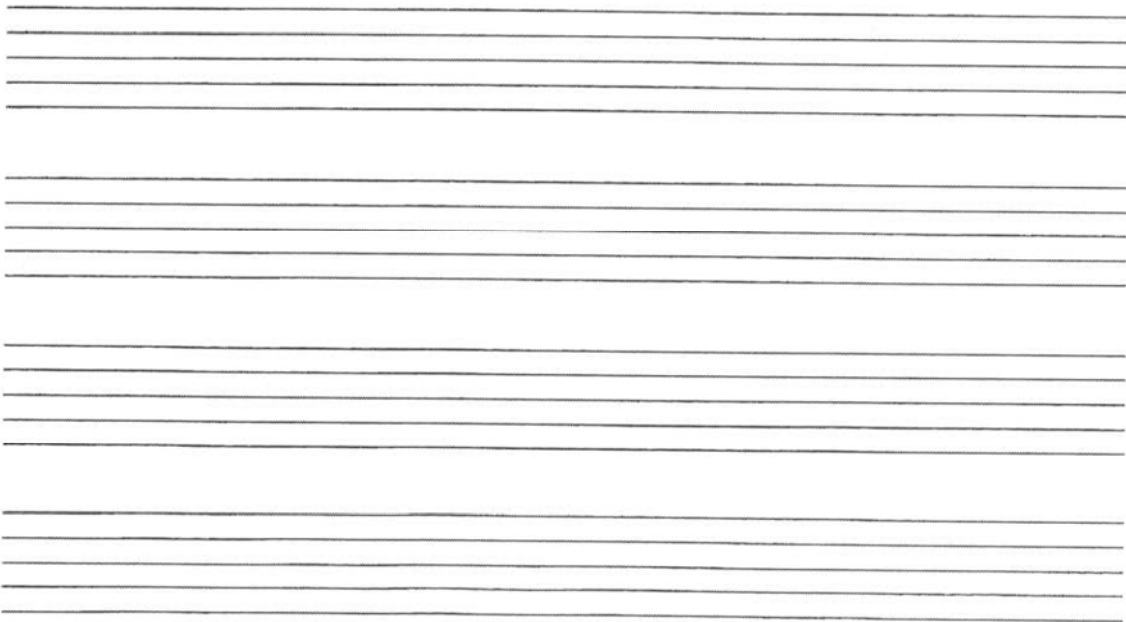
(テキストと同時進行または数週間後)

- ・ 聴音&楽典パーティーB

p.44 “おさらい”

5 せん ぷ

43



WP271J

この五線譜はいろいろなことに使って下さい！
生徒の大半はト音記号やヘ音記号・<せん>や<かん>の音を書いたりしています。

48

しゅうりょうしょうしょ
修了証書
Certificate of Achievement

さま

あなたは、ピアノパーティー B をぜんぷおわりました。



このほんで きにいった きょくを ここに かいてみましょう。

あなたは、CとGとFポジションのきょくが、ひけるようになりました。
かけるようになった おんぶを ここにかいてみましょう。

WP271J

ねん がつ にち せんせい

ピアノパーティーBはいかがでしたか？ 最後のページの修了証書に必要事項を書いて生徒さんをほめてあげて下さい。そして、ピアノパーティーC、聴音&楽典パーティーC、パフォーマンスパーティーCに進むことを確認しましょう。